法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-26

和仏法律学校講義録

秋山，雅之介 / 山崎，覺次郎 / 谷野，格 / 竹井，耕一郎 / 鈴木，英太郎

(出版者 / Publisher)
和佛法律學校
(巻 / Volume)
1-5
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
49
(発行年 / Year)
1903-01-06

明治三十六年一月六日發行

三十六年度　第一學年ノ五

和佛法律學校講義錄

第參拾五號

和佛法律學校

第一學年第五號目次

憲　法（自三至四三）　法學士　竹井耕一郎

民法總則（自第一章至第三章自六至八一）　法學士　鈴木英太郎

刑法總論（自五三至六八）　法學士　谷野格

國際公法（戰時）（自五三至六四）　法學士　秋山雅之介

經濟學（自五五至七二）　法學士　山崎覺次郎

雜報

○迎新○制限外ノ利息ノ給付○所有者ヲ誤認シテ假差押ヲ爲シタル執達吏ノ責任○支拂命令ニ因ル給付ト不當利得

090
1903
1-1-5

(乙) 憲法規定ノ事項ヨリ其意義ヲ定メントスル說

(イ) 憲法ハ國權ノ體用機關ノ組織ニ關スル法ナリ　此定義ハ「ラバンド」「ダルベル」等ノ採ル所ナリ然レトモ甚タ廣キニ失ス國權ノ體用及ヒ機關ノ組織ヲ總テ憲法ノ內ニ包含セシムルハ適當ナラス何トナレハ憲法ハ本體法ニシテ細目ニ至ルマテ關係スヘキニ非サレハナリ

(ロ) 憲法ハ國權ノ大體ヲ規定スルモノナリ　此意義ハ狹キニ失ス憲法ハ必スシモ本體ノミヲ規定スルモノニ非ス國權ノ作用ト雖モ重要ナルモノハ之ヲ定ムルヲ以テ至當トス

(ハ) 憲法ハ國權組織ノ法ナリ　此說ハ「グナイスト」ノ唱フル所タリ然レトモ其意義一方ニ於テハ廣キニ失シ又一方ニ於テハ狹キニ失ス何トナレハ國權ノ組織ハ悉ク憲法ニ規定シ盡ス能ハサルト同時ニ組織ノミカ憲法ノ規定スル所タリト云フハ適當ナラス憲法ハ組織及ヒ作用ノ大綱ヲ定ムルモノトス」

(ニ) 憲法トハ統治ノ主體客體及ヒ統治者自ラ行フ統治權ノ作用ニ關スル法ナリ　此說ハ「ボルンハック」ノ唱フル所ニシテ我國學者ノ一派之ヲ祖述ス然レ

トモ先ツ第一ニ疑フヘキハ憲法ハ何故ニ統治者自ラ行フ作用ノミニ限定セラルヤ「ボ」氏ハ此點ニ於テ憲法ト其他ノ法トヲ區別シ行政法ハ統治者自ラ行ハス機關ニ委任シテ行ハシムル作用ニ關スト曰フ或ハ統治者自ラ行フモノハ比較的重要ナル作用ニシテ機關ニ委任スルハ重要ノ程度比較的低キモノナリ故ニ前者ハ憲法ノ範圍トスヘシト云フノ趣意ナランカ然レトモ此議論ハ決シテ之ヲ貫徹スルコト能ハス何トナレハ統治者自ラ行フヘキモノニテモ時トシテハ攝政ナル機關ヲ通スヘキ場合アリ假ニ此場合ハ稀有ノ例外ナリトシテ說明スルモ現ニ諸國憲法ニ規定セル司法權ノ働ノ如キハ裁判所ト云フ機關ニ委任シテ行フモノタリ且統治者自ラ爲スモノカ總テ重要ニシテ其他ハ左程重要ニ非ストノ論モ決シテ穩當ナラス右述フル所ニ據リ「ボルンハック」氏ノ說モ未タ採ルヘカラス

(ホ) 憲法トハ直接機關ニ關スル規定ナリトス　此說ハ近來我國ニ勢力アリ之ニ依レハ總テ統治ノ機關ヲ分チテ直接機關及ヒ間接機關ノ二種トス直接機關トハ一國ノ成立ニ缺クヘカラサル機關ニシテ憲法上當然權限ヲ有スル

モノ是ナリ我國法ニ於テ此種ノ機關ハ天皇及ヒ議會是ナリ次ニ間接機關トハ必スシモ一國ノ成立ニ缺クヘカラサルモノニ非ス其存在ハ一ニ直接機關ニ基キ其權限ハ直接機關ヲ經由シテ生スルモノナリ尙ホ其直接機關ノ作用ヲシテ國法上ノ作用タラシムルニ必要ナル機關即チ國務大臣及ヒ裁判所ハ之ヲ準直接機關ト稱スルコトヲ得ヘシ憲法ハ直接機關及ヒ之ニ附從シテ準直接機關ニ關スル規定ヲ爲スモノナリト論ス此說ニ對シ予ハ根本的ニ反對ノ意見ヲ有ス予ハ天皇ヲ以テ統治ノ主體ナリトスル者ニシテ之ヲ機關ト稱スルノ說ト相容レス今姑ク多數說ニ從ヒテ天皇機關說ヲ採ルモ尙ホ此說ハ不可ナリ前論者ハ直接機關ヲ以テ先ツ國家ノ成立ニ缺クヘカラサルモノトス今天皇ハ姑ク措キ何故ニ議會ナケレハ國家成立セスト云フヤ或ハ曰ハン憲法上議會ナクシテ國家ノ成立ヲ認ムルコト能ハスト果シテ然ラハ同シ道理ニテ憲法上裁判所ナケレハ國家ノ成立ヲ認ムルコト能ハス國務大臣ナケレハ國家ノ成立ヲ認ムルコト能ハスト云ヒ得ヘキニ非スヤ然ルニ論者ハ何故ニ特ニ議會ノミカ國家ノ成立ニ缺クヘカラサルモノト論斷セシヤ

論者或ハ曰ハン議會ハ憲法上當然權限ヲ有シ他ノ機關ヨリ權限ヲ付與セラレサルコト天皇ト同一ナリ國務大臣等ニ在リテハ然ラス故ニ此等ノ間ニ區別アリト然レトモ先ツ憲法上當然權限ヲ有スルハ議會ニ限ラス裁判所モ國務大臣モ其權限ハ憲法ニ依リ當然定マルモノナリ或ハ論者ノ趣意ハ國務大臣等ハ皆君主任命ノ手續ニ依リ權限ヲ得即チ天皇ヲ經由セサルヘカラス議會ハ然ラスト云フニ在ランカ是レ大ナル誤ナリ議會ト雖モ天皇ヲ經由シテ成立スルモノナリ天皇カ開會ヲ命シ給フニ非サレハ決シテ議會ハ成立セサルナリ或ハ又議會ハ國民ノ選擧ニ因リテ直チニ成立スト言ハンカ是レ亦誤ナリ選擧ハ議員ヲ生スレトモ議會ヲ生スルコト能ハス而シテ國家機關トシテ行動スルハ各議員ニ非スシテ議會ナルコトハ言ヲ俟タス更ニ一歩ヲ進メテ言ヘハ議員ト雖モ今日ノ法制ニテハ選擧ノミニ因リテ生スルモノニ非ス貴族院議員ノ一部ノ如キハ勅任ニ因リテ始メテ就職ス而シテ若シ此種ノ議員ヲ缺ケハ議會ハ適法ニ成立セス言ヲ換フレハ適法ナル議會ヲ作ラントスルニハ亦君主ノ任命ヲ要スルコトト爲ルヘシ

以上論スル所ニ依レハ議會モ國務大臣等モ同シク憲法上一定ノ權限ヲ有シ天皇ヲ經由シテ成立スルハ毫モ異ナル所ナシ然レハ一ハ直接機關タリ一ハ然ラスト論スルハ不可ナリ天皇機關說ニ基キ所謂直接機關ヲ求ムレハ天皇ノ外アルヘカラス

尙ホ少シク論點ヲ換ヘテ論スレハ國家ハ憲法上ノ手續ヲ蹈ミテ憲法ヲ改正シ以テ機關ノ組織ヲ變更スルコトモ爲シ得ルカ故ニ論者ノ現ニ一國ノ成立ニ缺クヘカラサル機關ト稱スルモノモ何レノ時ニ變更スルコトト爲ルヤモ測リ難シ論者ノ說ノ如キハ實ニ危險ナル基礎ノ上ニ立ツモノト謂フヘキナリ要スルニ我憲法ニ於テ天皇ハ統治權ヲ總攬スト規定セル所以ハ萬機皆天皇ヨリ發スルヲ示スモノニシテ議會ト雖モ此原則ニ洩レス天皇ト相並ヒテ直接機關タリトノ觀念ハ決シテ穩當ナラスト謂フヘシ

序ニ一言スヘキハ或學者カ國務大臣裁判所等ヲ指シテ準直接機關ト稱ス即チ直接機關ニモ間接機關ニモ非サルモノト爲ス此ノ如キハ意義甚タ曖昧ニシテ法學上ノ用語トシテ適當ナラス以上ハ假ニ天皇機關說ニ從ヒテ論シタ

ルモノナリ但予ハ天皇ヲ統治ノ主體ナリトスルカ故ニ此說ト水炭相容レス隨テ此說ニ基ク憲法ノ意義ハ採ルヘカラスト考フ

以上ノ諸說未タ憲法ノ適當ナル觀念ヲ定メ難シ予ノ考フル所ニ據レハ憲法トハ國權ノ本體及ヒ其運用ノ大綱ヲ定メタル法規ヲ稱ス即チ國權體用ノ根本的規定ナリ彼ノ行政法刑法訴訟法ノ如キハ皆憲法ノ範圍內ニ在リテ各種ノ政務執行ニ必要ナル規定ヲ爲スニ外ナラス一ハ大體法タリ一ハ細目法タリ此說ニ對シテ批難スル者ハ曰ク國權體用ノ大綱ト細目トノ區別明白ナラス隨テ憲法ノ範圍ヲ知ルヲ得スト然レトモ學者カ憲法ト謂ヒ行政法ト謂フハ同種類ノ法ニ就テ學問ノ便宜ニ依リ區別ヲ試ムルニ過キス性質ノ異ナリタル法カ別別ニ存在スルニ非ス故ニ全然異ナリタル種類ノモノヲ區別スルカ如ク劃然タラサルハ固ヨリ然リ果シテ然ラハ憲法ハ國憲ノ本體及ヒ運用ノ大綱ヲ規定スト云フハ尤モ穩當ナル觀念ナリト考フ

第二節　憲法ノ制定

既ニ論セシ如ク憲法ハ必スシモ成文法典ヲ成スモノニ限ラス是ニ於テカ憲法ニ成文憲法及ヒ不文憲法ノ二種アリ

今日所謂立憲國ニ於テハ憲法ノ少クトモ一部ハ成文ヲ成スモノトス而シテ殊ニ一種ノ法典タル體裁ヲ具備スルモノ亦尠カラス例ヘハ獨、普、伊、蘭、白及ヒ我帝國等ハ憲法法典ヲ具備ス之ニ反シテ英國、佛國、瑞國ノ如キハ法典ノ體裁ヲ具ヘタルモノナシ故ニ制定ノ方法ニ法典制ト非法典制トヲ區別スルコトヲ得

右ニ述ヘタル如ク憲法ノ制定ニ種種アリ而シテ尙ホ制定ノ手續ニ關シテ欽定憲法ト協定憲法トヲ區別スル者アリ欽定トハ君主ノ制定ニ係ルモノヲ稱シ協定トハ國民ノ一致ニ由リ制定スルヲ謂フ前者ハ純粹ナル君主國ニ於テ君主カ獨裁スル場合ニ生シ後者ハ主權カ君主ニ存セサル場合ニ生ス我國憲法ノ如キハ純粹ナル欽定憲法タリ歐洲ニ於テモ欽定憲法ト稱スルモノアリト雖モ歐洲ノ國體ハ多クハ國民團體ニシテ君主ハ唯機關トシテ存在スルニ過キサルカ故ニ其形式ハ君主ヲ經由シテ發布セラルルト雖モ國民主權ノ發表ナリ此ノ如キハ理論上欽定憲法ト稱シ難シ

第三節　憲法ノ效力

「ラバント」以下多クノ學者ハ憲法ノ效力ヲ分チテ實質的效力及ヒ形式的效力トス實質的效力トハ人ノ行爲ニ對スル拘束力ヲ謂ヒ形式的效力トハ憲法、法律、命令等ノ區別ヨリ相互間ニ生スル效力ヲ謂フ

一　憲法ノ實質的效力　實質的效力トハ既ニ述ヘシ如ク人ノ行爲ヲ束縛スル力ニシテ此點ニ於テ憲法モ法律モ命令モ區別アルヘキ道理ナシ

二　憲法ノ形式的效力　形式的效力トハ憲法法典ノ規定カ法律、命令、皇室典範等ニ對シテ相互間ニ有スル效力ヲ謂フ今之ヲ分チテ論スヘシ

(甲)　憲法ト法律トノ關係　或論者ハ曰ク憲法ト法律トハ同一ナリ帝國憲法ニ依レハ第三十七條ニ「凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス」ト定ム即チ法律トハ帝國議會ノ協贊ヲ經タル政令ヲ指スモノナリ憲法モ亦其規定スル所ニ依リ帝國議會ノ協贊ヲ得ルニ非サレハ改正ヲ行フコトヲ得サルカ故ニ法律ト毫モ異ナル所ナシ故ニ第三十七條ニ所謂法律トハ憲法ヲ包含スルモノトス或ハ曰ハク第七十三條ニ於テ改正ノ手續ヲ定メ一般法律ノ場合ヨリモ鄭重ニシ即チ勅命ニ由リ議案ヲ議會ニ提出シ議會ニ於テ三分ノ二以上ノ出席數、三分ノ二以上ノ多數ヲ要ストセルハ憲法ト法律トヲ區別スル所以ナリト然レトモ是レ唯手續ノ差異ニ過キス同シク議會ノ協贊ニ由ル政令タルニ外ナラスト此說ハ英國ニ於テ憲法ト法律トヲ同一視スルノ實例ニ基キ我國法ヲ解セントスルノ趣意ナリ然レトモ英國ニ於テハ憲法ノ改正ニ於テ我國ノ如キ鄭重ナル手續ヲ設ケス其取扱カ全然他ノ法律ト異ナラサルカ故ニ憲法ト法律トハ同一ナリトノ論決ヲ爲スモ差支ナシ我國ノ如ク特別ニ憲法ヲ鄭重ニ取扱フ國ニ於テ直チニ英國ト同一ナリト謂フコト能ハサルハ明カナリ論者ハ單ニ手續ノ差異ニ過キスト曰フト雖モ手續ヲ鄭重ニシタル所以ハ即チ二者ノ間ニ差等ヲ設ケシニ非サルヲ知ランヤ即チ法律ノ改廢ト同一手續ニテハ憲法ヲ改正スルコト能ハスト云フハ取モ直サス法律ヲ以テ憲法ヲ動スコト能ハストノ精神ナリ且憲法ヲ改正スルハ現行法ノ規定ニ依リ議會ノ協贊ヲ要スヘキモ憲法ノ制定ハ議會ノ協贊ヲ經シモノニ非ス天皇直接ニ制定發布セシモノナリ然ルニ法律ト云ハ

ハ其制定モ改廢モ總テ議會ノ協贊ニ由ラサルヘカラス又法律ノ成立ニハ裁可ノ形式ヲ要スルモ憲法ノ改正ニハ此手續ノ規定ナシ加之現ニ憲法ノ中ニモ憲法ト法律トハ明カニ區別シテ用フ此等ノ點ニ於テモ憲法ト法律トノ差異ヲ見ルニ足ルヘシ且若シ憲法ヲ以テ法律ト同一ナリトセンカ甚シキ不都合ノ結果ヲ生スルヲ免レス例ヘハ憲法第八條ニ依レハ天皇ハ緊急ノ場合ニ法律ニ代ル勅令ヲ發シ或ハ法律ヲ改廢シ或ハ立法事項ヲ定ムルコトヲ得此場合ニ於テ憲法ヲ法律ナリトセハ此勅令ヲ以テ憲法ヲモ改正スルコトヲ得ト謂ハサルヘカラス然レトモ是レ豈ニ緊急勅令ノ性質ナランヤ此ノ如ク我國憲法ニ於テハ憲法ト法律トノ間ニ差等ヲ認ムルコト明カナリトス

普通法律ヲ以テ憲法ヲ動スヘカラサルノ理ハ了解セリ然ラハ反對ニ憲法ヲ以テ法律ヲ動スコトヲ得ルヤ

元來憲法ト曰ヒ法律命令ト曰フモ總テ統治者ノ同一意思ノ發表ナリ故ニ其間ニ特ニ差等ヲ設クルニ非サレハ其效力モ亦同一ナリトセサルヘカラス然ルニ我國法ニ於テハ特ニ憲法ヲ鄭重ニ取扱ヒ法律ヲ以テ之ヲ動スコトヲ許サス即チ二者ノ間ニ斯輕ヲ設クルノ精神ヨリ推ストキハ憲法ヲ以テ法律ヲ動シ得ト論スルモ差支ナカルヘシ或ハ之ニ對シ明文上ノ證據ナシト爲ス者アラン然レトモ既ニ述ヘタル如ク簡短ナル憲法條文ノ解釋ハ屢精神解釋ヲ以テ補ハサルヘカラサルノミナラス憲法第七十六條ニ依レハ憲法發布前ノ法律規則命令等ハ憲法ニ矛盾セサル限リ遵由ノ效力アリトス即チ憲法ニ矛盾スルモノハ效力ナシ此規定ハ憲法發布前ノ法律ニ關スト雖モ依テ以テ憲法ヲ他ノ命令ヨリ效力强シトスルノ精神ヲ見ルヘシ且第七十三條ニ於ケル憲法ノ改正ハ毫モ制限ナク法律ト矛盾スル改正ヲ行フモ之ヲ禁スルノ明文ナシ結局法律ヲ動スモ差支ナキコトト爲ルヘシ以上述フル所ニ據リ憲法ト法律トハ其間ノ效力ニ强弱アリト結論スルヲ得

(乙)　憲法ト命令トノ關係　憲法ト命令トノ關係ニ於テハ學者ノ間ニ議論ナシ即チ憲法ヲ以テ命令ト同一視スル者ナキナリ何トナレハ命令ハ議會ノ協贊ヲ經テ改廢スルモノニ非ス此點ニ於テ憲法ト異ナルノミナラス其强弱ニ於テモ亦區別セラル即チ普通命令ニ關シテハ憲法ニ定メタル如ク法律サヘ動スノ力

ナシ況ヤ憲法ニ於テヲヤ特別ノ效力ヲ有スル命令例ヘハ緊急勅令ノ如キモ法律以上ノ力ナシ左レハ是レ亦憲法ヲ動スヘカラサルヤ明カナリ

(丙)　憲法ト皇室典範トノ關係　皇室典範ノ性質ニ關シテハ學說一致セス或ハ曰ク典範ハ皇室ノ家法ニシテ私法的ノ性質ヲ有スト或ハ曰ク皇室典範ハ國家公法上ノ命令ニシテ而モ其重要ナルモノナリト予ハ以爲ク典範ハ公法,私法兩性質ヲ有スト何故ニ然ルヤ憲法第二條ニ依ルニ皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス即チ皇位繼承ノ順序ハ皇室典範ニ依リテ定マル又憲法第十七條ニ於テハ攝政ヲ置クノ場合ハ皇室典範ニ於テ之ヲ定ムト規定ス此等ハ重要ナル公法上ノ規定タリ然レトモ典範全體カ皆然リト謂フコト能ハス例ヘハ財產ニ關スル規定ノ如キハ私法的ノ性質タリトス以上ノ區別アルニ拘ハラス典範全體ヨリ論シテ憲法トノ關係ヲ按ニ述ヘントス憲法第七十四條ニ依レハ皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セストス尙ホ皇室典範ヲ以テ此憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ストス左レハ典範ハ憲法ヲ動スコト能ハサルモノナリ然ラハ之ト反對ニ憲法カ典範ヲ動スコトヲ得ルヤ典範末條ニ依

明セソト欲ス例ヘハ民法第五百六十八條第一項ニ强制競賣ノ場合ニ於テ競落人ハ債務者ニ對シ法律ニ定メタル條件ニ從ヒ契約ノ解除ヲ爲シ又ハ代金ノ減額ヲ請求スルコトヲ得ル旨ノ規定アリ此規定ハ專ラ債務者ニ對シテ强制執行ヲ爲シタル場合ノ規定ナリ然レトモ第三者カ債務者ノ爲メニ抵當權ヲ設定シ而シテ債權者ハ第三者ニ對シテ强制執行ヲ爲ス場合ノ規定ナシ故ニ此場合ニ適用スル規定ヲ發見スルコトヲ要ス仍テ其類似ノ場合ニ適用スヘキ民法第五百六十八條第一項ノ規定ニ付キ其由リテ生シタル原則ヲ考フルニ總テ强制執行ノ場合ニ於テハ買主ハ賣主ニ對シテ法律ノ定メタル條件ニ從ヒ契約ノ解除ヲ爲シ又ハ代金ノ減額ヲ請求スルコトヲ得ト爲スニ在ルカ如シ而シテ此原則タルヤ勿論第三者ニ對スル强制執行ノ場合ニモ適用スルコトヲ得ルモノナレハ右ノ債務者ニ對スル强制競賣ノ解除及ヒ代金減額ノ請求ニ關スル規定ハ之ヲ第三者ニ對スル强制競賣ノ場合ニモ之ヲ適用スルコトヲ得ルモノト信ス學者或ハ類推解釋ヲ以テ前ニ述ヘタル補充解釋ト同一ナリト言ヘル者アリ然レトモ是レ誤レリ補充解釋ノ場合ニ於テハ其伸張セラルルモノハ法ノ意義ニ

非スシテ單ニ其用語ナリ之ニ反シテ類推解釋ノ場合ニ於テハ伸張セラルルモノハ法ノ用語ニ非スシテ其意義ナリ此點宜シク注意スヘキモノナリトス

第二編　本論

第一章　私權ノ觀念及ヒ種類

第一節　權利ノ觀念

權利トハ何ソトノ問題ハ古來ノ大問題ニシテ今日ニ於テモ尙ホ之ニ付キ一定ノ學說ナシ予ハ本節ニ於テ先ツ權利ノ觀念ニ關スル古來ノ學說ノ大要ヲ說明シ然ル後予ノ信スル所ヲ述ヘントス

權利ノ觀念ニ關スル古來ノ學說ハ其數甚タ多クシテ一一之ヲ枚擧スルニ遑アラス然レトモ之ヲ大別スルトキハ左ノ三ニ區別スルコトヲ得

第一　意思說　此說ニ依レハ權利ノ本體ハ意思ニシテ意思ナケレハ權利ナク權利ノ存スル所ハ必ス意思アリトノ見解ナリ此說ハ有名ナル「ヘーゲル」氏(千七百七十年乃至千八百三十一年)以來行ハレタル說ニシテ近來ニ於テモ「アルンツ」「ブフター」「サビニー」「ウヰンドシャイド」「ウンゲル」「ツッハ」「シロースマン」「ロザック」等ノ大家モ尙ホ之ヲ首唱セリ意思說ヲ採ル學者ニ於テモ人ニ依リ其說ヲ異ニス或ハ權利トハ法律ニ依リテ許サレタル意思ノ自由ノ範圍ナリト曰ヒ或ハ權利トハ法律ニ依リテ許サレタル行爲ノ自由ノ範圍ナリト曰ヒ或ハ權利トハ法律ニ依リテ付與セラレタル意思ノ力ナリト曰ヘリ

第二　利益說　此說ヲ採ル者ハ曰ク權利ノ本體ヲ意思ナリトセハ權利能力ハ即チ意思能力ニシテ意思能力ナキ者ハ權利ヲ有スルヿト能ハサル道理ナリ然ルニ彼ノ瘋癲白痴又ハ幼者ノ如キ法律上全ク意思能力ナキ者モ權利ヲ有スルコトヲ得ルヲ以テ權利ノ本體カ意思ナリトハ誤解ナリ權利ノ本體ハ意思ニ非スシテ利益ナリト曰ヘリ此說ハ「イエリング」氏(七八年前ニ死ス)始メテ之ヲ主張シテ以來學者間極メテ勢力アル說ナリ而シテ氏ノ權利ノ定義ハ權利トハ法律ニ依リテ保護セラレタル利益ナリト曰云フニ在リ

第三　折衷說　此說ニ依レハ權利ノ本體ハ單純ニ意思ニモ非ス利益ニモ非ス意思ト利益トノ二要素相合シテ權利ノ本體ヲ爲ストノ見解ナリ「エ」リ「ック」「ギー

ルケ」「メルケル」「レーグルスベルゲル」「ロージン」等此說ヲ主張ス「エリヤック」曰ク意思說ニ依レハ權利ノ本體ハ意思ナリト云フモ單純ナル意思ハ心理學上考フルコト能ハス意思ト云ヘハ必ス一定ノ目的アルコトヲ要ス隨テ法律カ各人ニ意思ノ力ヲ付與スルト云フモ單純ニ意思ノ力ヲ付與スルコト能ハス必ス或一定ノ目的ノ爲メニ之ヲ付與スルコトヲ要ス故ニ權利ヲ以テ單ニ法律ニ依リテ付與セラレタル意思ノ力ナリト言フカ如キハ未タ完全ニ權利ノ本質ヲ說明セルモノト謂フヘカラス又利益說ニ依レハ權利ノ本體ハ利益ナリト稱スルモ利益トハ物カ人ノ目的ニ役立ツコトヲ謂フ然ルニ意思ナケレハ目的ナシ目的ナケレハ利益ナシ故ニ意思ヲ離レテ權利ハ單ニ法律ニ依リテ保護セラレタル利益ナリト云フカ如キハ是レ亦未タ完全ニ權利ノ本質ヲ說明シ得タルモノト謂フヘカラス

折衷說ヲ採ル學者モ人ニ依リ其說ヲ異ニス即チ比較的意思說若クハ利益說ニ傾ク學者アリ而シテ其比較的利益說ニ傾ク學者ハ例ヘハ權利トハ人ノ意思ノ力ヲ認ムルコトニ依リテ保護セラルル利益ナリト謂ヒ(エリヤック)比較的意思說ニ傾ク學者ハ權利トハ利益ヲ享有スル爲メニ法律ニ依リテ付與セラレタル意思ノ力ナリト曰ヘリ(ギールケ「メルケル」「レーグルスベルゲル」「ロージン」等)

以上述ヘタル所ハ權利ノ觀念ニ關スル古來ノ學說ノ大要ナリ予ハ是ヨリ進ミテ權利ノ觀念ニ關シテ自己ノ信スル說ヲ述ヘントス予ハ權利トハ利益ヲ享有スル爲メニ法律ニ依リテ付與セラレタル意思ノ力ナリト信ス是レ即チ前ニ述ヘタル所謂折衷說ニシテ比較的意思說ニ傾ケルモノナリ故ニ予ノ見解ニ據レハ權利ノ本質ハ意思ニ非ス又利益ニモ非ス意思ト利益トノ二者カ相集リテ以テ權利ノ本質ヲ成スモノト信ス予ハ是ヨリ此定義ヲ分析說明セン

(一)　權利ハ法律ニ依リテ付與セラレタル意思ノ力ナリ　權利ハ一箇ノ力ナリ然レトモ其力ハ物質上ノ力(Physische Macht)ニ非スシテ意思ノ力(Willensmacht)ナリ例ヘハ或人カ他人ニ對シテ行爲又ハ不行爲ヲ爲サシムル權利ヲ有スル場合ニ於テ權利者ハ自己ノ體力ヲ以テ義務者ヲ强制シ其行爲又ハ不行爲ヲ爲サシムルコトヲ得ルモノニ非スシテ單ニ權利者カ義務者ヲシテ其行爲又ハ不行爲ヲ爲サシムヘキ意思ヲ表示シタルトキハ義務者ハ之ニ從ハサルヘカラサルモノ

トス即チ權利ハ物質上ノ力ニ非スシテ意思ノ力ナリ

右ニ述フル如ク權利ハ意思ノ力ナリ故ニ例ヘハ權利者カ義務者ニ對シテ行爲又ハ不行爲ヲ命シタルトキハ義務者ハ之ニ從ハサルヘカラス然レトモ此權利者カ義務者ニ對シテ行爲又ハ不行爲ヲ命スルト云フ點ニ付キ少シク注意ヲ要スヘキモノアリ最初義務者ニ對シテ行爲又ハ不行爲ヲ命スルハ權利者自身ニ非スシテ其命令ハ法律ノ命令ナリ然レトモ義務者カ其命令ニ從ハサルトキハ其命令ヲ實行スルヤ否ヤハ全ク之ヲ權利者ノ自由ニ一任ス故ニ法律ハ義務者ニ對シテ行爲又ハ不行爲ノ命令ヲ權利者ニ授與シタルモノニシテ之ヲ權利者自身ノ命令タルト同一ノ結果ヲ生ス即チ此意味ニ於テ義務者ニ對スル行爲又ハ不行爲ノ命令ハ權利者ノ命令ナリ(「ウヰドシャイド」氏「パンデクテン」第一卷第三十七章參照)

權利ハ意思ノ力ナリト云フト雖モ權利主體ハ必スシモ意思能力ヲ有セサルヘカラストノ結論ヲ生セス前ニ述ヘタルカ如ク或人カ他人ニ對シテ行爲又ハ不行爲ヲ爲サシムル權利ヲ有スル場合ニ於テ最初義務者ニ對シテ行爲又ハ不行爲ヲ命スルハ權利者ニ非スシテ法律ナリ故ニ權利者ハ毫モ意思アルヲ必要トスル道理ナシ唯義務者カ此命令ニ從ハサルトキ權利者ハ其命令ヲ實行スル旨ノ意思ヲ表示スルコトヲ要スルノミ然レトモ法律ハ一方ニ於テ瘋癲、白痴又ハ幼者ノ如キ者ニ對シテ意思能力ヲ認メサルト同時ニ他方ニ於テハ所謂法定代理ノ制度ヲ設ケテ代理人カ本人ノ爲メニ爲スコトヲ示シテ意思ヲ表示シタルトキハ本人カ意思ヲ表示シタルト法律上同一ノ效力ヲ生スルモノナリ(第九九條)故ニ意思無能力者ト雖モ權利主體タルコトヲ得サルモノニ非ス

(二)　權利ハ利益ヲ享有スル爲メニ法律ニ依リテ付與セラレタル意思ノ力ナリ

權利ハ意思ノ力ナリ然レトモ其意思ナルモノハ決シテ空虛ナルモノニ非スシテ必ス一定ノ內容ヲ有スルモノナリ其意思ノ內容トハ即チ有形無形ノ利益ナリ是レ予カ意思ノ外ニ尙ホ利益ヲ以テ權利ノ觀念ノ要素ト爲ス所以ナリ

第二節　私權ノ觀念

法ヲ公法、私法ニ區別スルカ如ク權利モ亦公權、私權ニ區別スルコトヲ得而シテ行爲ヲ命スルハ權利者ニ非スシテ法律ナリ故ニ權利者ハ毫モ意思アルヲ必要トスル道理ナシ唯義務者カ此命令ニ從ハサルトキ權利者ハ其命令ヲ實行スル旨ノ意思ヲ表示スルコトヲ要スルノミ然レトモ法律ハ一方ニ於テ瘋癲、白痴又ハ幼者ノ如キ者ニ對シテ意思能力ヲ認メサルト同時ニ他方ニ於テハ所謂法定代理ノ制度ヲ設ケテ代理人カ本人ノ爲メニ爲スコトヲ示シテ意思ヲ表示シタルトキハ本人カ意思ヲ表示シタルト法律上同一ノ效力ヲ生スルモノナリ(第九九條)故ニ意思無能力者ト雖モ權利主體タルコトヲ得サルモノニ非ス

(二)　權利ハ利益ヲ享有スル爲メニ法律ニ依リテ付與セラレタル意思ノ力ナリ

權利ハ意思ノ力ナリ然レトモ其意思ナルモノハ決シテ空虛ナルモノニ非スシテ必ス一定ノ內容ヲ有スルモノナリ其意思ノ內容トハ即チ有形無形ノ利益ナリ是レ予カ意思ノ外ニ尙ホ利益ヲ以テ權利ノ觀念ノ要素ト爲ス所以ナリ

公法私法ノ區別ニ付テ議論アル如ク公權私權ノ區別ノ標準ニ付テモ亦甚タ議論アリ予ハ本節ニ於テ私權ニ關スル重ナル學說ヲ擧ケ併セテ予ノ信スル所ヲ述ヘントス或學者ハ曰ク「私權トハ財產權ナリ」ト例ヘハ「ゾーム」氏ノ如キ之ヲ主唱ス然レトモ財產權ハ私權中ノ大部分ヲ占ムルモノナルモ私權全體ニハ非サルナリ私權中ニハ財產權ノ外尙ホ生命權身體權自由權名譽權親族權相續權等アルヲ以テ此說ノ穩當ナラサルヲ知ルニ足ルヘシ又或學者ハ曰ク「私權トハ私益ノ爲メニ付與セラレタルモノナリ」ト私權ノ大部分殊ニ財產權ノ如キハ私益即チ權利者自己ノ爲メニ付與セラレタリト謂フコトヲ得レトモ少クモ彼ノ親族權ノ如キハ決シテ私益ノ爲メニ付與セラレタリト謂フヘカラス故ニ此說モ亦不當ナルヲ免レス又或學者ハ曰ク「權利トハ權利者自己ノ爲メニ存シ權利者ニ對シ同時ニ義務ノ伴ハサル權利ナリ」ト私權中例ヘハ財產權ノ如キハ權利者自己ノ爲メニ存シテ權利者ニ對シ義務ト伴ハスト謂フコトヲ得ルモ親族權ノ如キハ權利タルト同時ニ義務ヲ負擔スルモノナルカ故ニ此說モ亦正當ナラサルナリ近來ニ至リ公權私權ノ區別ニ關シ精細ナル研究ヲ爲シタルハ「エリチック」氏ナリ同氏カ其著實公權論ニ述フル所ニ據リテ其說ノ大要ヲ說明セント欲ス「エリチック」氏曰ク「凡ソ意思ノ力ノ活動スル方法ニ二種類アリ欲スルコトヲ得ル(Wollendurfen)コトト欲シ能フ(Wollenkönnen)コトトノ二ナリ天然ノ自由ニ由ル意思ノ活動ニシテ法律ノ許ス所ノモノハ即チ法律上欲スルコトヲ得ルモノナリ例ヘハ事實上賣買ヲ締結シ又ハ婚姻ヲ爲スカ如キモノナリ但法律上欲スルコトヲ得ルトハ他人ノ自由範圍ニ交涉スル場合ニ限ル例ヘハ散步シ又ハ眠ルト云フカ如キ人ト人トノ關係ナキモノハ法律上無關係ノ行爲ニシテ法律ノ關係スル所ニ非ス故ニ法律上欲スルコトヲ得ルト云フハ唯同等ノ人ニ對シテ欲スルコトヲ得ルノミナリ然ルニ法律ハ又人ノ自然ノ能力ニ加フルニ其自然ニ有セサル能力ヲ以テス即チ法律ヲ以テ或行爲ヲ法律上有效ノ行爲ト認メ且之ヲ保護スルコトアリ例ヘハ事實上賣買ヲ締結シ又ハ婚姻ヲ爲スト云フカ如キハ人ノ自然ニ有スル能力ナルモ之ヲ法律上有效ノ賣買若クハ婚姻ト爲シ法律ニ定ムル所ノ效果ヲ生セシムルコトハ人ノ自然ニ有スル能力ニ非スシテ法律ノ付與スル所ノモノナリ是レ即チ法律上欲シ能フトハ唯國家ニ對

シテ欲シ能フノミナリ而シテ法律上欲シ能フコトナクシテ欲シ得ルコトナキモ欲シ能フコトハ必スシモ欲シ得ルコトアルヲ要セサルナリ私權ニ於テハ欲シ得ルコトト欲シ能フコトトハ必ス相伴フモ之ニ反シテ公權ニ於テハ欲シ得ルコトナクシテ單ニ欲シ能フノミナリ欲シ能フコトハ公權ノ特徵ニシテ欲シ得ルコトカ私權ノ特徵ナリ」ト此「エリチック」氏ノ說ハ公權、私權ノ區別ノ研究上一段ノ進步ヲ與ヘタリト謂フヘシ然レトモ此說ハ未タ學者ノ贊同ヲ得ス或學者ハ此說ヲ批評シテ曰ク「法律上欲シ得ルコトハ人ノ天然ニ有スル自由ニ非スシテ法律カ之ヲ許スニ由リテ存在スルモノナリ換言スレハ國家カ人ノ自然ノ能力ニ加フルニ其自然ニ有セサル所ノ能力ヲ以テスルモノナリ故ニ所謂欲シ得ルコトモ欲シ能フコトモ等シク法律ノ付與シタル能力ニ過キス又一方ニ於テハ一定ノ範圍內ニ於テ國家ノ干涉ヲ受ケサル自由ノ權利ノ如キハ自然ノ意思ノ自由ニ由ル活動ニシテ法律ノ認ムル所ノモノナリト謂フヲ得ヘシ然レトモ此自由ノ權利ハ民法上所謂自由權ト異ナリ私權ニ非スシテ公權ナリトハ何人モ爭ハサル所ナリ之ヲ要スルニ「エリチック」氏ノ說ハ頗ル斬新ニシテ巧妙ナルカ如シト雖モ未タ公權、私權ノ區別ヲ明瞭ニ爲シ得タリト謂フヘカラス」ト蓋シ此評ハ當レリト信ス最後ニ或學者ハ曰ク「私權トハ私法ニ依リテ認メラレタル權利ナリ」ト「レーゲルスペルゲル」氏モ此說ヲ主張ス此說ハ前述ノ「エリチック」氏ノ說ノ如ク權利ノ性質ニ立入リテ公權、私權ヲ區別シタルニ非ス極メテ形式的ノモノナルカ故ニ之ヲ十分ナル說ト謂フコト能ハサルモ比較的穩當ナル說ト信ス故ニ予ハ此說ニ依ル者ナリ尙ホ此說ヲ明瞭ナラシメンニハ私法トハ如何ナルモノナルヤ又權利トハ如何ナルモノナルヤニ付キ說明スル必要アレトモ此點ニ付テハ第一編第一章及ヒ前節ニ於テ既ニ論シタル所ナレハ今茲ニ反復セス

第三節　私權ノ種類

私權ハ種類ナル標準ニ依リテ之ヲ區別スルコトヲ得予ハ先ツ私權ノ內容ヨリ生スル區別ヲ擧ケ然ル後效力ヨリ生スル區別ヲ研究セントス私權ハ其內容ヨリ觀察セハ之ヲ左ノ如ク大別スルコトヲ得

(一)　人格權

人格權トハ人カ人トシテ有スル權利即チ人カ人タルノ資格ニ於テ有スル權利ヲ謂フ例ヘハ生命權、身體權、名譽權、自由權等ノ如シ人格權カ私權ナルヤ否ヤニ付キ頗ル議論アリ或ハ之ヲ以テ私權ニ非スト主張スル學者モ尠カラス例ヘハ「サビニー」「ウンゲル」等ノ如シ然レトモ今日多數ノ學者ハ之ト反對ニシテ人格權ヲ以テ一種ノ私權トセリ予モ亦之ヲ正當ナリト信ス殊ニ我新民法ノ解釋トシテハ第七百九條、第七百十條、第七百十一條等ノ規定ヨリ推測シ人格權ハ私權ナルコト毫モ疑ナキモノト信ス

(二)　親族權

親族權トハ親族上ノ關係ヨリ生スル所ノ權利ヲ謂フ例ヘハ戸主權、親權、夫權等ノ如シ

(三)　財産權

財産權ナル語ハ我民法ニ於テモ使用セラル(第一六三條、第二〇五條、第二六四條、第三六二條、第四二四條、第二項、第五五五條、第七一〇條)然レトモ財産權ハ如何ナルモノヲ謂フカニ付キ法文上明カニ規定セルモノナシ故ニ予ハ民法ノ規定ニ基キ一般ノ學說ニ依リテ之ヲ研究セントス

財産權ノ定義ニ關スル學說種種アリ今試ニ其重ナルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

(イ)　財産權トハ處分スルコトヲ得ヘキ目的ヲ有スル權利ヲ謂フ(梅博士)

(ロ)　財産權トハ其價格カ金錢ヲ以テ見積ルコトヲ得ル權利ヲ謂フ(デルンブルグ)

(ハ)　財産權トハ權利者自己ノ爲メニ與ヘラレタル權利ヲ謂フ(ウヮンドシャイド)

(ニ)　財産權トハ權利者ノ身體以外ニ關スル權利ニシテ自己保續(Selbsterhaltung)ノ爲メニ付與セラレタル權利ヲ謂フ(パロン)

右四箇ノ學說中我民法ノ解釋トシテ孰レヲ採用スヘキカハ一ノ問題ナリ予ハ財産權トハ權利者ノ身體以外ノモノニ關スル權利ニシテ權利者ノ自己ノ爲メニ與ヘラレタル權利ナリト謂フヲ適當ナリト信ス即チ予ノ定義ハ右ノ學說中「ウヮンドシャイド」ノ說ト「パロン」ノ說トヲ折衷セルモノナリ予カ特ニ權利者ノ身

體以外ニ關スル權利ナルコトヲ財產權ノ要素トスルハ前ニ述ヘタル人格權ト區別スルカ爲メニシテ又權利者自己ノ爲メニ與ヘラレタル權利ナルコトヲ財產權ノ要素トセシハ親族權等ト區別センカ爲メナリ

財產權ハ更ニ之ヲ左ノ如ク區別スルコトヲ得

(イ) 物權　物權トハ直接ニ物ノ上ニ行ハルル權利ヲ謂フ即チ他人ノ行爲ノ媒介ヲ要セスシテ權利者カ直チニ物ヲ支配スルコトヲ得ル權利ナリ例ヘハ或人カ或物ノ上ニ所有權ヲ有ストハ他人ノ行爲ノ媒介ヲ要セスシテ自ラ直接ニ其物ヲ使用、收益、處分スルコトヲ得ルカ如キ是ナリ學者或ハ曰ク權利トハ總テ人ト人トノ間ニ生スルモノナリ人ト物トノ間ニハ權利ノ關係存セス然ルニ物權ヲ以テ直接ニ物ノ上ニ行ハルル權利トシ恰モ人ト物トノ間ニ存スル權利ノ如ク說明スルハ不可ナリト予ト雖モ此學者ノ言ノ如ク權利トハ總テ人ト人トノ間ニ存スルモノナリト信ス然レトモ此人ト人トノ間トハ必スシモ直接ノ關係タルコトヲ要セス間接ノ關係タルモ差支ナキモノト信ス而シテ物權ノ如キハ其間接ノ關係ナリト思惟ス即チ人ト物トノ直接ノ關係カ間接ニ他ノ人トノ關係ヲ生シタルモノナリ故ニ物權ヲ以テ直接ニ物ノ上ニ行ハルル權利ト謂フモ取テ不都合ナシト信ス然レトモ物權ノ性質ニ關スル詳細ノ說明ハ固ヨリ物權法ノ講義ニ於テ研究スルコトヲ必要トス

(ロ) 債權　債權トハ或人ヲシテ或事ヲ爲シ又ハ爲ササラシムル權利ヲ謂フ例ヘハ賣主カ買主ヲシテ代金ヲ支拂ハシムル權利又ハ賃貸人カ賃借人ヲシテ賃借物ヲ轉貸セシメサル權利ノ如シ物權ノ場合ニ於テハ前ニ述ヘタルカ如ク直接ニ人ト物トノ關係ニシテ唯間接ニ人ト人トノ間ノ關係ヲ生スルノミナリ之ニ反シテ債權ノ場合ニ於テハ直接ニ人ト人トノ關係ニシテ間接ニ人ト物トノ關係ヲ有スルニ過キス例ヘハ前例ニ於テ賣主ハ買主ノ支拂ニ因リテ始メテ金錢ヲ取得ス又賃借人ハ賃貸人ノ義務履行ニ因リテ始メテ賃借物ヲ使用スルコトヲ得ルカ如シ但債權中ニハ間接ニ於テモ物ニ關係ナキモノアリ例ヘハ或人ヲシテ音樂ヲ奏セシムル權利ノ如シ

右ニ述ヘタル物權及ヒ債權ノ外財產權中尙ホ版權、特許權、意匠權、商標權等ノ如キモノアルモ此等ハ皆特別私法ニ規定スル所ナルヲ以テ茲ニ之ヲ論セス

(四)　相續權

相續權トハ如何ナルモノナルヤ我民法ノ解釋上一箇ノ難問ナリト信ス予ハ相續權ニ關スル學說ノ大略ヲ擧ケ併セテ自己ノ意見ヲ陳述スヘシ但相續權ノ性質ノ詳細ナル研究ハ固ヨリ相續法ノ講義ニ讓ル

或人カ他人ノ相續人ト爲ルニ付相續權ノ觀念ニ關シ種種ナル場合ヲ想像スルコトヲ得即チ或人カ他人ノ相續人ト爲ル場合ニ於テ最初ハ推定相續人ノ地位ニ在ル者ナリ予ハ假ニ之ヲ推定相續人ノ有スル權利ト名ケ次ニ相續開始ニ際シ相續ノ承認ヲ爲シ自己カ相續人タルコトヲ確定セシムルコトヲ得ル地位ニ在リ之ヲ相續人ト爲ル權利(Das Recht, Erbe zu Werden)ト名ク次ニ相續ヲ承認シタル後自己カ相續人タルコトヲ主張シ得ヘキ地位ニ在リ之ヲ相續人タルノ權利(Das Recht, Erbe Zu Sein)ト名ク最後ニ相續財產ニ付テ自己ノ權利ヲ主張シ得ヘキ地位ニ在リ予ハ之ヲ相續財產ヲ目的トスル權利ト名ク而シテ學者中或ハ相續權ヲ以テ右ニ述ヘタル推定相續人ノ有スル權利ナリト解スル者アリ又相續人ト爲ル權利若クハ相續人タル權利ナリト解スル者アリ或ハ又相續權ヲ

以テ相續財產ヲ目的トスル權利ナリト解スル者アリ我新民法上相續權ト稱スルハ如何ナル意義ニ之ヲ解釋スヘキモノナルヤ新民法上少クトモ家督相續ノ場合ニ於テハ家督相續人ハ相續開始ノ時ヨリ前戶主ノ有セシ權利義務ヲ承繼スルモノニシテ管ニ財產ノミナラス戶主權ト謂フカ如キ身分權ヲモ相續スルモノナルヲ以テ相續權トハ相續財產ヲ目的トスル權利ナリト謂フコト能ハス我國ノ學者中民法第九百七十三條、第九百七十四條、第九百九十五條、第八百七十五條等ノ規定ヨリ推測シテ相續權ヲ以テ推定相續人ノ有スル權利ナリト解スル者アリ此說ハ新民法ノ解釋上頗ル有力ナルモノニシテ或ハ最モ適當ナルモノナルヤモ知ルヘカラス然レトモ予ハ此說ノ當否ニ付キ少シク疑問ヲ有スル者ナリ若シ相續權ヲ以テ推定相續人ノ有スル權利ト爲セハ其權利ノ目的ハ相續人ト爲ルニ在ルヲ以テ相續一旦開始シテ既ニ相續人ト爲リタル後ハ最早相續權ハ其目的ヲ達スルニ由リテ消滅シタルモノナリト謂ハサルヘカラス然ルニ民法第九百六十六條ノ規定ヲ見ルニ相續權ナルモノハ相續開始ノ後ニ於テ存在スルノミナラス專ラ相續開始ノ後ニ始メテ發生スルモノナルコトヲ推知

シ得ヘシ是レ予カ未タ前說ニ贊同スルコト能ハサル所以ナリ又相續權トハ相續人ト爲ル權利ナリトノ說モ同シク民法第九百六十六條ノ規定ノ精神ニ合ハサルモノト信ス予ハ未タ相續權ナルモノカ如何ナルモノナルカニ付キ十分ナル研究ヲ爲シタル者ニ非サルヲ以テ直チニ相續權ノ何モノタルコトヲ斷言スルコト能ハサルモ我民法ノ解釋上前ニ述ヘタル民法第九百七十四條、第九百九十五條等ノ規定ト多少抵觸スルカ如キモ第九百六十六條ノ規定ノ精神ヨリ推シテ相續權トハ相續人タル權利ナリト言フヲ適當ナリト信ス即チ我民法上相續トハ固ヨリ相續人カ被相續人ノ有スル特定ノ權利義務ヲ承繼スルノ意味ニ非ス又其權利義務ヲ包括的ニ承繼スルニモ非サルナリ我民法上相續トハ相續人カ被相續人ノ身分ヲ承繼スルコトヲ謂フ隨テ相續トハ權利義務ノ主體ヲ變更(Wechsel des Rechtssubjekts)スルニ非スシテ實ロ其主體ヲ持續(Erhaltung des Rechtssubjekts)スルモノナリト謂フコトヲ得ヘシ故ニ相續權トハ相續人カ被相續人ノ身分ノ承繼者タルコトヲ主張シ得ル地位ヲ謂フモノナリト信ス然レトモ前ニモ述ヘタルカ如ク我民法上相續權ノ何タルヤハ一箇ノ難問ナルヲ以テ諸君ハ相續法ノ講義ト相俟チテ詳細ヲ知得セラレンコトヲ希望ス

次ニ私權ハ其效力ヨリ觀察シテ之ヲ對世權、對人權ノ二ニ區別スルコトヲ得

(一)　對世權

對世權トハ總テノ人ニ對抗スルコトヲ得ル權利ヲ謂フ例ヘハ生命權、身體權、自由權、名譽權、物權及ヒ相續權ノ如キハ對世權ナリ

(二)　對人權

對人權トハ對世權ト異ナリ單ニ特定ノ人ニ對シテノミ對抗スルコトヲ得ル權利ヲ謂フ例ヘハ債權、親族權ノ如シ

第二章　私權ノ主體

第一節　總論

前ニ述ヘタルカ如ク權利トハ利益ヲ享有スルカ爲メニ法律ニ依リテ付與セラレタル意思ノ力ナリ故ニ權利ノ主體ハ意思ニ非ス又利益ニ非ス意思ト利益トノ二要素相集リテ權利ノ本質ヲ成スモノト信ス權利ノ觀念ニ關シ單純ナル意

思說ヲ採ル學者ハ多タハ權利能力ヲ以テ意思能力ト爲シ權利ノ主體タル者ハ必ス意思能力ヲ有セサルヘカラスト爲ス之ニ反シテ利益說ヲ主張スル學者ハ意思能力ヲ有スル者ヲ權利ノ主體ト爲サス利益ヲ享有スル者ヲ權利ノ主體トス然レトモ予ハ此二說孰レニ對シテモ反對ノ說ヲ有ス權利トハ利益ヲ享有スル爲メニ法律ニ依リテ付與セラレタル意思ノ力ナレハ權利ニハ必ス利益伴ヒ權利ノ主體ハ常ニ利益ヲ享有スルコトヲ得ルモノトス然レトモ利益ヲ享有スル者皆悉ク權利ノ主體タルコト能ハス然レトモ亦意思ナケレハ權利ノ主體ト爲ルコト能ハサルヘキモノニ非スト信ス此點ハ意思說ヲ採ル學者ト意見ヲ異ニスル所トス或人カ他人ニ對シテ行爲又ハ不行爲ヲ爲サシムル權利ヲ有スル場合ニ於テ最初ニ義務者ニ對シテ其行爲又ハ不行爲ヲ命スルハ權利者自身ニ非スシテ法律ナリ而シテ義務者カ其命令ニ從ハサル場合ニ之ヲ實行スル爲メニハ意思必要ナレトモ法律ハ所謂法定代理ノ制度ヲ設ケ代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示シテ意思ヲ表示シタルトキハ本人カ意思ヲ表示シタルト法律上同一ノ效力ヲ生スルヲ以テ意思無能力者ト雖モ法定代理人ノ意思ニ依リテ義務者ニ對スル行爲又ハ不行爲ノ命令ヲ實行スルコトヲ得瘋癲白痴又ハ幼者ト雖モ意思能力ヲ有セスシテ權利ノ主體ト爲ルコトヲ得故ニ權利ノ主體トハ意思ノ主體若クハ利益ノ主體ニ非スシテ其名義ニ於テ權利カ實行セラルル所ノモノヲ謂フ即チ例ヘハ幼者ハ法律ニ依リテ保護セラレタル利益ヲ享有スルカ爲メニ權利ノ主體タルニ非ス又幼者ハ意思ヲ有スルカ爲メニ權利ノ主體タルニ非ス唯幼者ノ名義ニ於テ權利カ實行セラルルカ故ニ權利ノ主體タルナリ」

權利ノ主體タルコトヲ得ル者ハ第一ニ吾人人類ナリ古昔羅馬ニ於テハ人類ニシテ權利ノ主體タルコト能ハサル者アリ例ヘハ奴隷ノ如シ然レトモ今日文明諸國ノ法律ニ於テハ人類ハ總テ權利ノ主體タルコトヲ得ルモノナリ我民法ノ如キモ固ヨリ人類ニシテ權利ノ主體タルコトヲ得サル者ヲ認メス又法律ハ一方ニ於テ吾人人類ニ對シテ權利ノ主體タルコトヲ得サル者ヲ認メサルト同時ニ他方ニ於テハ人類以外ノ者ヲモ權利ノ主體ト爲スコトアリ例ヘハ國及ヒ國ノ行政區畫又ハ學校病院ノ如キモノ是ナリ故ニ法律上權利ノ主體タルコトヲ得ルモノハ吾人人類ト人類以外ノモノトニ大別スルコトヲ得而シテ法律學上

權利ノ主體ヲ或ハ又一般ニ人ト稱ス人類ニシテ權利ノ主體タル者ヲ自然人或ハ單ニ人ト稱ス人類以外ノ者ニシテ權利ノ主體タル者ヲ法人ト稱ス隨テ法律上人ト云フ觀念ニハ廣狹ノ二義アリ廣義ノ人トハ權利ノ主體全體ヲ總稱シ之ニ反シテ狹義ノ人トハ單ニ自然人ノミヲ指ス我民法ニ於テ人トハ專ラ狹義ノ意味ヲ有ス

權利ノ主體ハ特定スルヲ通常トス即チ茲ニ一ノ權利アレハ通常何某ト謂フ權利ノ主體アリ然レトモ例外トシテ權利ノ主體カ特定セサル場合アリ例ヘハ茲ニ一ノ權利アリテ其權利主體ハ何某ト特定セサルモ一定ノ法律關係ニ立ツ者ハ何人ト雖モ其權利ノ主體ト爲ル場合ナリ即チ彼ノ地役權ノ主體ノ如キハ常ニ要役地ノ所有者ナラサルヘカラス隨テ之ヲ以テ權利主體ノ特定セサル一例ト爲スコトヲ得(第二八一條)又權利ノ主體ハ一人ヲ以テ通常ト爲ス然レトモ例外トシテ一ノ權利カ多數ノ主體ニ歸屬スルコトアリ例ヘハ共有權(第二六四條)不可分債權(第四二八條)等ノ如シ

權利ノ主體多數ナル場合ト反對ニ權利ノ主體全ク欠缺スル場合アリ而シテ此主體ナキ權利ハ法律上存在スルコトヲ得ルモノナルヤ此問題ハ法律學者中ノ一大問題ナリ其論者ノ頭數ヨリ言ヘハ贊否相半スルモノトス予ハ國ニ由リテ法律上主體ナキ權利ヲ認メタルモノアリト信ス例ヘハ羅馬法、普漏西國法ノ如キハ其一例ナリ然レトモ我民法ヲ論スルニ當リテハ直接ニ主體ナキ權利ヲ研究スルノ必要ナシ

予ハ本章ニ於テ權利ノ主體ヲ論スルニ當リ先ツ自然人即チ民法ニ所謂人ヲ研究シ然ル後法人ニ及ハントス

第二節　人

第一款　權利能力ノ始期及ヒ終期

權利能力(Rechtsfähigkeit)トハ私權ヲ享有シ其主體タル能力ヲ謂フ而シテ此權利能力ハ或ハ之ヲ私權享有ノ能力ト謂フ

(一)　權利能力ノ始期　人ノ權利能力ハ何時始マルカ懷胎ノ時ヨリナルカ出生ノ時ヨリナルカ民法ノ規定ニ依レハ出生ニ始マルヲ原則トス(第一條)元來人ハ

既ニ懐胎スルモ未タ出生セスシテ尚ホ母ノ胎内ニ在ル間ハ未タ獨立ノ存在ヲ有セサルヲ以テ之ヲ母體ノ一部ト看ルヘキモノニシテ法律上人ト謂フコト能ハス隨テ人ノ權利能力出生ニ始マルハ蓋シ當然ナラン然ラハ出生トハ如何ナル事實ヲ謂フカ此解釋ニ付テハ二ノ見解アリ一ハ羅馬法ノ採用セル主義ニシテ他ノ一ハ現今醫學上ノ見解ナリ羅馬法ノ主義ニ依レハ出生トハ胎兒ノ母體ト全然分離スル事實ヲ謂フ之ニ反シテ醫學上ノ見解ニ依レハ出生トハ胎兒ノ固有ノ生活ノ始マリタル事實ヲ謂フ故ニ今日ノ醫學上ノ出生ナル事實ノ發生スルハ胎兒カ母體ト必スシモ分離スルコトヲ要セス空氣ヲ呼吸スレハ足レリ我民法ハ右二主義中孰レヲ採用セルヤヲ考フルニ「出生ナル文字ヨリ推測スルモ羅馬法ノ主義ヲ採用シタルモノト思ハル即チ我民法上出生トハ胎兒カ母體ト全然分離スル場合ヲ謂フ人カ出生ニ因リテ權利能力ヲ有スルニハ固ヨリ生存スルコトヲ必要トス縱令胎内ニ在ル間生存スルモ死體ニテ出生シタルトキハ權利能力ヲ有セサルコトハ勿論ナリ然レトモ出生後一瞬間タリトモ生存スレハ足レリ決シテ長期間生存スルノ體力ヲ必要トセス古昔ノ立法例ニ於テハ人カ出生ニ因リテ權利能力ヲ得ルニハ生活シ得ヘキ體力(Lebensfähigkeit)ヲ必要トセルモノ多シ今日ニ於テモ尚ホ佛蘭西民法第七百二十五條ニハ同一ノ主義ヲ採用セルモ我民法ハ現今ノ普通ノ立法例ニ倣ヒ所謂生存シ得ヘキ體力ヲ以テ權利能力ヲ得ルノ一ノ要件トセス

外國ノ法律例ヘハ羅馬法普漏西國法「バエルン」國法索遜民法等ニ於テハ所謂畸形兒(Monstrum)ニ關スル規定アリ然レトモ今日ノ醫學上ヨリ言ヘハ人ノ產ミタル者ハ必ス人ニシテ人以外ノ者ナシ縱令多少ノ變形アルモ人ナリトセリ故ニ我民法ニ於テハ現今ノ普通ノ立法例ト同シク所謂畸形兒ナルモノニ付キ何等ノ規定ヲ設ケス

(二)　權利能力ノ終期　人ノ權利能力ハ死亡ニ因リテ終ル是レ當然ノ事ニシテ言ヲ俟タサルヲ以テ民法ハ特ニ此點ニ付キ何等ノ明文ヲ設ケス昔羅馬ニ於テハ自由人カ其身分ヲ失ヒ奴隷ト爲リタルトキハ又權利能力ヲ失フ結果ニ至ル其他歐羅巴ノ中世ニ於テ僧侶ト爲ルトキハ準死ト稱シテ等シク權利能力ヲ失

ヒタルモノナリ然レトモ今日ノ文明國ニ於テハ此ノ如キ奴隷又ハ準死ノ如キ制度ヲ認メサルヲ以テ人ノ權利能力ナルモノハ單ニ死亡ニ因リテ終了スルモノト謂フコトヲ得但法律上死亡ト同一視セラルル所ノ失踪ノ宣告第三一條ナルモノアリ此宣告カ權利能力ニ對シテ如何ナル效力アルヤハ後ニ述フヘシ

第二款　胎兒ノ權利能力

人ノ權利能力ハ我民法上出生ニ始マルヲ以テ原則ト爲スコトハ前款ニ於テ述ヘタルカ如シ故ニ既ニ懷胎スルモ未タ出生セサル胎兒ハ何等ノ權利能力ヲ有セサルコトハ右ニ述ヘタル原則ノ當然ノ結果ナリ然レトモ此原則ハ無制限ニ適用スルトキハ甚タ酷ニ失シテ頗ル不條理タルコトヲ免レス故ニ羅馬法以來各國ノ立法例ニ於テハ此原則ニ對シテ多少ノ例外ヲ設クルヲ普通トス我民法モ亦此等ノ例ニ倣ヒ或例外ノ場合ニ於テハ胎兒ニ私權享有ノ能力ヲ付與ス故ニ予ハ本款ニ於テ胎兒ノ權利能力ニ付テ少シク研究セントス

(一)　胎兒ノ觀念　胎兒トハ懷胎後未タ出生セサルモノヲ謂フ何時懷胎シタル

カヲ決スルハ單純ナル法律問題ニ非スシテ醫學上ヨリモ研究スルコトヲ必要トス又出生トハ如何ナル事實ヲ謂フカハ既ニ前款ニ述ヘタルヲ以テ再ヒ贅セス

(二)　胎兒ノ利益保護ノ形式　胎兒ノ利益ヲ保護スル形式ニ付テ二ノ立法例アリ其第一ノ主義ハ胎兒ヲ以テ直チニ權利ノ主體ト爲サスシテ胎兒ノ爲メ將來ニ於テ享有スヘキ權利ヲ留保シテ之ヲ何人ノ所有ニモ歸セシメス所謂主體ナキ權利ノ狀態ニ於テ之ヲ保存シ胎兒生存シテ出生シタル場合ニ於テ之ヲ其子ニ與フルモノト爲ス主義ニシテ普漏西國法ノ如キハ此主義ヲ採用ス又第二ノ主義ハ胎兒ヲ以テ法律ノ假定ニ由リテ既ニ生レタルモノト看做シ胎兒ヲ以テ直チニ權利ノ主體ト爲ス主義ナリ但胎兒ヲ以テ權利ノ主體ト爲スト雖モ胎兒カ將來生存シテ出生スルニ限ルモノニシテ若シ胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ一旦法律ノ假定ニ由リテ權利ノ主體ト看做シタルニ拘ハラス始ヨリ權利ノ主體タラサリシモノト爲スナリ索遜民法、墺太利民法、獨逸民法ノ如キハ此主義ヲ採用ス我民法ハ右二主義中第二ノ主義ヲ採用ス故ニ胎兒ハ我民法上或範圍

内ニ於テ權利能力ヲ有スルモノナリ

(三)　胎兒ノ權利能力ノ範圍　胎兒ノ權利能力ノ範圍ヲ定ムルニ付キ又二ノ立法例アリ一ハ概括的ノ規定ニ由ルモノニシテ他ノ一ハ各條ニ規定スルモノナリ羅馬法ニ於テハ胎兒ハ既ニ生レタルモノト看做ス(Nosciturus proiam neto habe tur)ト云フカ如キ概括的ノ規定ヲ以テ胎兒ノ權利能力ノ範圍ヲ定メタリ其他普佛西國法第十二條索遜民法第三十二條墺太利民法第二十二條等ニ於テモ此羅馬法ニ於ケルト類似ノ概括的ノ規定ヲ以テ胎兒ノ權利能力ノ範圍ヲ定メタリ之ニ反シテ獨逸新民法編纂者ハ其理由書中ニ論シテ曰ク羅馬法ノ如ク一般ニ胎兒ノ權利能力ヲ認ムルノ必要ナシ而シテ胎兒ノ權利能力ノ範圍ヲ或適當ノ場合ニノミ制限シテ之ヲ概括的ニ言表ハスハ立法上極メテ困難ナリ諸國ノ立法者ハ皆之ヲ試ミテ失敗セリ然レトモ此ノ如キ困難ヲ冒シテ胎兒ノ權利能力ノ範圍ヲ概括的ニ規定スル必要ナシ其適當ト認ムル範圍ニ於テ各條ニ之ヲ規定セハ足レリト隨テ獨逸新民法ハ羅馬法以來ノ概括的規定ノ立法主義ヲ破リ各條ニ規定スルノ主義ヲ採用セリ我國ニ於テハ舊民法人事編第二條ニ「胎內ニ刑法ヲ適用スヘカラサルハ外國ノ統治者又ハ攝政ヲ刑スヘカラサル理由ニ同シ

ロ　使節ハ夥多ノ祕密ヲ有スル者ナリ　外交ハ祕密ヲ尚ヒ使節ハ外國ニ在リテ自國ノ外交事務ヲ處理スル者ナリ即チ使節ニ對シ其駐在國ノ刑法ヲ適用スルハ外交ノ祕密ヲ暴露スルニ外ナラス若シ此ノ如ケンカ何レノ日カ克ク國際間ノ平和ヲ維持スルコトヲ得ンヤ外國ノ使節ヲ處刑セサルコトモ亦近時國際法上ノ慣例タルナリ

而シテ外國使節ノ隨伴者ニ對シ除外例ヲ認ムルハ猶ホ外國ノ統治者又ハ攝政ノ隨伴者ニ對シ除外例ヲ認ムル趣意ニ同シ

三　當該國ニ在ル外國ノ官吏　即チ主トシテ外國ノ領事ヲ謂フ領事ハ外國ノ統治者ヲ代表スル者ニ非サルヲ以テ外國ノ使節ノ如ク統治權代表ノ理由ニ依リ刑法ノ人ニ關スル效力ノ除外ト爲スコトヲ得ス然リト雖モ領事ノ主管スル行政ハ常ニ外交ニ影響ヲ及ホスヘキ性質ヲ有シ領事ノ祕密ヲ尊重スヘキハ敢テ外國使節ノ祕密ヲ尊重スヘキニ異サラス故ニ近時國際慣例ノ傾向

ハ或程度マテハ領事ニ對シテモ亦刑法ヲ適用セサルコトニ在ルカ如シ

四　內國ニ在ル外國軍隊　外國軍隊ノ通過又ハ駐屯ヲ許容シタル場合ニ於テハ其軍隊ニ屬スル軍人及ヒ軍屬ニ對シテモ亦內國ノ刑法ヲ適用セス軍隊ハ其所屬國ノ刑法ノ支配ヲ受クルコトヲ常トス

第四節　刑法ノ效力ノ終期

總テ成文法ノ效力ハ廢止即チ實施期限ノ滿了ニ因ル廢止、法律ノ目的トスル事項、物又ハ制度ノ消滅ニ因ル廢止及ヒ他ノ法令ニ依ル明示又ハ默示ノ廢止ヲ以テ終ルコトヲ通則トス刑法ノ效力モ亦然リ、然リ刑法ノ效力ハ廢止ヲ以テ終ルト雖モ學者間廢止ノ效力ニ付キ二樣ノ見解ヲ有スルヲ以テ刑法ノ效力ノ終期ニ付テモ亦同一ノ斷案ヲ得ルコト能ハス第一ノ見解ニ依レハ凡テ法律ノ廢止トハ將來ニ向テ絕對ニ其適用ヲ廢止スルモノニシテ刑法ノ如キモ亦一旦其廢止アリタル以上ハ裁判所ハ其廢止前ニ爲シタル行爲ニ對シテモ亦之ヲ適用スルコト能ハスト爲シ第二ノ見解ニ依レハ凡テ法律ノ廢止トハ將來生スヘキ行爲ニ對スル適用ヲ廢止スルモノナルヲ以テ刑法ノ如キモ亦其廢止後ト雖モ苟モ其廢止前ノ行爲ニ係ルトキハ裁判所ハ廢止セラレタル刑法ヲ適用スルヲ得ヘシト爲シ隨テ刑法第三條第一項ハ「法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス」即チ法律ノ頒布後ト雖モ其頒布以前ニ係ル犯罪行爲ニハ其法律ヲ適用セスト定ムルモ第一ノ見解ヲ採ル者ハ第一ノ見解ハ原則ナリト雖モ此原則ヲ刑法ニ及ホスコトヲ不可ナリトシ明文ヲ以テ除外例ヲ設ケタルモノナリト曰ヒ第二ノ見解ヲ採ル者ハ第三條第一項ハ刑法ノ終期ニ關スル效力ノ原則ヲ揭出セルモノナリト曰フ夫レ法律廢止ノ效力如何ハ國法上ノ問題ニ屬シ國法上ニ於テモ學說紛紛トシテ畫一ノ斷案ヲ得ルコト難シ即チ廢止ノ效力ニ付キ或ハ第一ノ見解ヲ採リ或ハ第二ノ見解ヲ採ル餘地アリト雖モ凡テ法律ハ行爲ノ準則ナルヲ以テ一旦一法律ノ下ニ於テ一行爲ヲ爲シタル以上ハ其行爲ニ對スル效果即チ保護又ハ科刑ノ有無若クハ程度等ハ既ニ一定スヘク既存ノ效果ハ其後ニ於テ法律ヲ廢止シテ以テ之ヲ抹消スヘカラス即チ予ハ法律ノ廢止後ト雖モ廢止前一定ノ效果ヲ付スヘカリシ行爲ニ對シテハ所定ノ效果ヲ付スルコ

トヲ妥當ナリト信ス

上述ノ如ク予ハ第二ノ見解即チ法律ノ廢止トハ將來發生スヘキ行爲ニ對スル適用ヲ廢止スルモノナリトノ說ヲ採リ刑法第二條第一項ハ此原則ヲ明示セシニ過キサルモノト爲ス即チ苟モ法律ノ存續中現出シタル行爲ナルトキハ其法律ノ廢止セラレタルヤ否ヤニ關セス常ニ其行爲當時ノ法律ヲ適用スヘキコトヲ原則トス此原則ハ民法其他ノ法律ノ部面ニ於テモ不動ノ原則ナルヲ以テ各國ノ學者及ヒ各國ノ立法ハ多ク此原則ヲ以テ法律全般ノ大則ト認メ單ニ原則ニ對スル例外ノミヲ揭ケ其原則ハ之ヲ明記スル價値ナキモノト爲ス如シ然レトモ

一　立法者ハ各立法當時ノ社會ノ狀況ニ鑑ミ一定ノ行爲ニ對シ秩序ノ維持ニ相當ナル刑ヲ科スルモノナルヲ以テ若シ其行爲後刑法ノ改正アリ且其改正刑法カ行爲者ニ利益アルモノナリトセハ立法者ハ其行爲ニ對シ改正刑法ノ規定ヲ適用スルヲ以テ社會ノ秩序ヲ維持スルニ足ルト爲スモノト謂フコトヲ得ヘク理論上未タ裁判ヲ受ケサル行爲ニ對シ其行爲ノ當時ノ法律ヲ適用スヘキモノトスルモ改正刑法ニ於テ行爲者ニ利益ナル規定ヲ設クル場合ニ付テハ之ニ除外例ヲ設ケ改正刑法ヲ適用スト爲スコトヲ妥當ナリトス

二　法ハ總テ行爲ノ準則ナリ國民ハ刑法ニ依リテノミ其刑セラルヘキ行爲ノ範圍ト其刑セラレサル行爲ノ範圍トヲ識別ス改正刑法ニ於テ行爲者ニ利益ナル規定ヲ設クル場合ニ付キ除外例ヲ認メ改正刑法ヲ適用スヘキモノト爲サハ國民ハ利益ナル規定ヲ設クル改正刑法ヲ適用セラルヘキ權利ヲ有ス故ニ其後ニ於テ尙ホ數回刑法ノ改正アリ刑ニ關スル規定其前ノ改正刑法ノ規定ニ比照シ國民ニ不利益ナルモノナリトスルモ其規定中最モ利益ナルモノヲ適用セサルヘカラス

是レ近時各國ノ立法ニ於テ多少ノ除外例ヲ認ムル所以ナリ而シテ其遡及力ヲ認ムル要件ハ概チ左ノ如シ

第一　刑ニ關スル規定ノ一回以上ノ變更アリタル事實

第二　未タ確定裁判ヲ經サル罪ナル事實　確定裁判ヲ經ストハ事實上未タ判決ヲ受ケサル場合及ヒ既ニ判決ヲ受ケタリト雖モ法律上其判決ニ對シテ上訴

ヲ許ス場合等ヲ謂フ此條件ヲ必要トスルヲ以テ判決確定ノ後ニ於テハ縱令刑ニ關スル規定ノ變更アリタルトキト雖モ刑法上之ニ何等ノ救濟ヲモ與フルコトヲ得ス然レトモ此場合ニ於テモ亦特別ノ立法又ハ主權者ノ恩典ニ依リテ特別ノ利益ヲ與フルコトハ自ラ別種ノ問題ニ屬ス

第三　犯行當時ノ刑ニ關スル規定ニ比較シ犯人ニ利益ナル刑ニ關スル規定アル事實　行爲者ニ利益ナル規定トハ行爲者ニ對シ最モ利益アル刑ニ關スル規定ノ謂ニシテ管ニ刑法各本條ニ於テ科セラルル刑ノ有無及ヒ其分量ノ多寡ヲ云フニ止マラス時效期間ノ長短再犯加重制ノ有無及ヒ其加重ノ程度ノ多寡等ヲモ云フモノニシテ行爲者ニ利益ナル刑ニ關スル規定ヲ現出スヘキ場合ハ舊刑法ノ刑ニ關スル規定ヲ廢止セル場合及ヒ改正刑法舊刑法ノ刑ニ關スル規定ヨリ輕キモノヲ說クル場合是ナリ和蘭刑法第一條伊太利刑法第二條第三項ノ如キハ最モ被告人ニ利益ナル規定ヲ適用スト曰ヒ匈牙利刑法第二條ノ如キハ彼我ノ中最モ寬ナル法則ヲ適用スヘシト曰ヒ「最モ」ナル語句ニ依リテハ數回刑法ノ改正アリテ其一刑法ニテモ犯行當時ノ刑法ヨリ比較的ニ利益アルモノナル場合ヲ豫想スルノミナラス又「利益若クハ「寬」ナル語句ニ依リ刑ニ關スル規定カ比較的輕キモノナル場合及ヒ全然廢止セラレタル場合ヲ豫想シタルナリ我刑法第三條第二項ニハ「若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス」ト規定ス是レ刑法ノ終期ニ關スル大原則即チ犯罪ニハ犯時ノ法律ヲ適用ストノ例外ニシテ此遡及力ヲ認ムルニハ左ノ二條件ヲ必要トス

一　所犯新法ノ頒布以前ニ在リテ未タ判決ヲ經サルモノナルコト

二　新法カ舊法ヨリ輕キモノナルコト

是ナリ上述セル所ト我刑法ノ規定トヲ比照スルトキハ我刑法ノ缺點モ亦尠シト謂フヘカラス試ニ左ニ之ヲ指摘セン

第一　犯時ノ法律ニ依リ行爲者ニ適用スヘキ刑ニ關スル規定ノ全然廢止セラレタル場合ニ付キ何等ノ除外例ヲ認メサルハ不可ナリ既ニ刑ニ關スル規定ニ輕重アル場合ニ於テ刑法ノ遡及力ヲ認ム然ラハ其規定ノ全廢セラレタル場合モ亦之ヲ豫想シテ同一ノ規定ノ支配ヲ受ケシメサルヘカラス而シテ我刑法ノ

規定カ不備ナル結果トシテ此點ニ付テハ少タトモ疑似ノ餘地アリ

第二　犯行後唯一回ノ刑ニ關スル規定ノ變更アリタル場合ノミヲ豫想シテ而モ其數回ノ改正アリタル場合ニ及ハス換言スレハ外國法ニ所謂中間法律ノ場合ヲ豫想セス是レ精緻ナル立法トハ謂フヘカラス若シ我刑法ニシテ此場合ヲ豫想セリトセンカ「新舊法ヲ比照シ其輕キニ從テ云云」「其最モ輕キニ從ヒ云云」ト規定セサルヘカラス

第三　單ニ判決ト云フ語句ニ拘泥スレハ或ハ各審級ニ於ケル未確定ノ判決ヲモ包含スト解セサルヘカラサル如シ

第五節　餘論

刑法ノ土地及ヒ人ニ關スル效力ハ上述セル如シ然ラハ一國ノ刑法ハ此等ノ土地ニ於ケル此等ノ人ニ適用ヲ有スルヤ自明ノ理ナリ然ルニ近時國際間ニ在リテハ合意ニ因リ特殊ノ條約即チ引渡條約ヲ締結シテ國法上其刑法ヲ適用シ得ル人ニ對シ之ヲ適用セサル例外ノ場合ヲ認メタリ夫レ引渡條約トハ一國ノ領土內ニ在留スル犯人ヲ外國ニ交付スル國際間ノ契約ヲ謂フ元來一國ハ獨立ノ統治權ヲ有シ其統治權ノ作用トシテ其國ノ刑法ヲ制定シタルモノナレハ內外國民ノ別ナク苟モ此刑法ノ罪目ニ觸ルル行爲ヲ爲ス者アランカ國家ハ其刑法ノ規定スル所ニ從ヒ之ヲ處罰スルコトヲ得ヘシ然リト雖モ國際間ノ關係ハ恰モ同等權利者間ノ關係ノ如シ國際關係上一國ノ權利ヲ絕對ニ伸張スルハ共同生活ノ美果ヲ收ムル所以ニ非ス是ニ於テカ引渡條約ナルモノヲ生シ一國ヨリ犯罪人引渡ノ請求アル場合ニ於テハ其請求ヲ受ケタル國家ハ縱令其犯人ハ自國刑法ノ適用ヲ受クヘキ者ナリトスルモ成ルヘク之ヲ請求國ニ引渡シ該國家ノ刑法ノ適用ヲ受ケシム

引渡條約ノ性質既ニ此ノ如シ然ラハ引渡條約トハ一國刑法ノ土地及ヒ人ニ關スル效力ノ除外例ヲ爲スモノニ外ナラス即チ一國ノ刑法上當然其刑法ヲ適用スヘキ地域內ニ發生シタル罪又ハ一國ノ刑法上當然其刑法ニ依リテ處斷スヘキ人ノ犯シタル罪ナリトスルモ此引渡條約ナル國際契約ヲ締結セル結果其刑法ニ依リテ之ヲ處斷セサルニ至ルヘキナリ然リ引渡條約ハ刑法ノ土地及ヒ人

ニ關スル效力ノ除外例ヲ現出セシムルモノニシテ恰モ國際慣例カ刑法ノ人ニ關スル效力ニ除外例ヲ生セシムルト同一ノ關係ヲ有スル如シ然レトモ國際慣例ハ前ニ述ヘタルカ如ク訴訟法上即チ手續法上ノ效力ノ除外例ヲ爲スノミナラス實體法即チ刑法上ノ除外例ヲ爲スモノニシテ引渡條約ハ單ニ訴訟手續上ノ除外例即チ國際間ノ共助ノ條約タルニ過キス是レ予カ引渡條約カ刑法ノ效力ニ及ホス影響ヲ刑法ノ土地ニ關スル效力中ニ說明セスシテ特ニ本節ヲ設ケ刑法ノ效力ノ餘論トシテ之ヲ說明スル所以ナリトス

明治二十年八月勅令第四十二號ヲ以テ逃亡犯罪人引渡條例ヲ發布シテ既ニ帝國ト犯罪人引渡條約ヲ締結シ若クハ今後締結スル外國ニ對スル犯罪人引渡ニ關スル規準ヲ定ム而シテ犯罪人引渡ニ關スル現存條約ハ唯明治十九年十月ノ勅令ニ依リ公布セラレタル日米犯罪人引渡條約ノミナリトス

以下國際法上比較的ニ確定セル犯罪人引渡ニ關スル大則ノミヲ揭出シテ說明セントス

第一　內國民ハ之ヲ引渡スコトヲ得ス　引渡條約ニ依リ如何ナル犯人ヲ引渡スヘキヤハ各條約ノ規定ニ從ヒ定マルヘキ問題ナリト雖モ獨逸國ノ如キハ其刑法第九條ニ於テ「獨逸人ハ訴追又ハ科刑ノ爲メ之ヲ外國政府ニ引渡スコトヲ許サス」ト明定セリ而シテ彼ノ「ベルチル」氏ハ其著書ニ於テ此規定ヲ設ケタル理由ヲ說明シテ曰ク獨逸人ノ引渡ハ眞ニ我國家ノ威嚴ヲ毀損シ且獨逸國人ノ權利ヲ傷害スルモノナリ苟モ獨逸國ノ威嚴ヲ維持セントセハ須ク犯人ハ獨逸國ノ刑法ニ依リテ之ヲ科刑スヘク外國政府ニ之ヲ交付スヘキニ非ス蓋シ獨逸國人ハ當然我刑法ニ依リテ處斷セラルヘキコトヲ期待シ得レハナリト我逃亡犯罪人引渡條例第一條第三項ニモ「逃亡犯罪人ト稱スルハ締約國ノ管轄內ニ於テ犯シタル引渡犯罪ニ付告訴告發ヲ受ケ若クハ有罪ノ宣告ヲ受ケタル帝國臣民外ノ人ニシテ帝國ノ管轄內ニ逃避シタル者又ハ逃避シタルノ嫌疑若クハ逃避セントスルノ嫌疑アル者ヲ謂フ但シ帝國ト請求國トノ犯罪人引渡條約ニ交互其臣民ノ引渡ヲ爲スヘキ條款アル場合又ハ犯罪人引渡條約ニ交互ノ任意ヲ以テ其臣民ノ引渡請求ニ應スルコトアルヘキ旨ノ條款アリ且請求國ニ於テ同樣ノ場合ニハ自國ノ臣民ヲ引渡スヘキ旨ヲ申出テタル場合ニ於テハ帝國臣民ヲ

包含ス」ト規定シ日米犯罪人引渡條約第七條ニハ「締約國ハ本條約ノ條款ニ因リ互ニ其臣民ヲ引渡スノ義務ナキモノトス但其引渡ヲ至當ト認ムルトキハ之ヲ引渡スコトヲ得ヘシ」ト規定シタリ

第二　國事罪過失罪又ハ違警罪ハ引渡犯罪ニ非ス　國事罪ヲ犯シタル者ハ其罪カ既遂ナルト又ハ未遂ナルトヲ問ハス若クハ行爲者ナルト又ハ教唆者幇助者ナルトヲ問ハス全ク之ヲ引渡スコトナシ是レ國事罪ヲ犯シタル者ノ如キハ多クハ赤心報國ノ士ナリ一旦正義ヲ誤判シ罪責ヲ得ルニ至リタリトスルモ之ヲ尋常ノ犯人ト同一視スヘキニ非サレハナリ又違警罪ノ如キハ地方的ノ性質ヲ有スル罪ニシテ特殊ノ國家ニ於テノミ之ヲ處罰スルモノ多キヲ以テ其後犯人カ既ニ他國ニ在留スルニ至リタルトキハ强ヒテ之ヲ處罰スル爲メ其引渡ヲ請求スル必要ナケレハナリ是ヲ以テ違警罪モ亦之ヲ引渡ササルコト近時國際間ノ慣例タリ

逃亡犯罪人引渡條例第一條第二項ニハ「引渡犯罪ト稱スルハ外國ト締結シタル犯罪人引渡條約ニ掲クル犯罪ヲ謂フ」ト規定シテ特則ニ之ヲ列記スル主義ヲ採リ尙ホ第三條ニ於テ「引渡ノ請求ニ係ル者ノ所犯政事上ノ犯罪ナル場合又ハ引渡ノ請求ハ實際政事上ノ犯罪ニ付審問シ若クハ處刑セントスルノ目的ニ出テタル旨ヲ本人ニ於テ證明シタル場合ニ於テハ逃亡犯罪人ハ之ヲ引渡スコトヲ得ス」ト規定シ日米犯罪人引渡條約ニ於テモ其第二條ニ於テ所謂引渡犯罪十三種ヲ定メテ國事罪過失罪又ハ違警罪等ヲ除外スルノミナラス又同第四條ニ於テハ引渡條例第三條ト同一趣意ノ規定ヲ置ケリ

第三　引渡ヲ爲スニハ引渡ヲ求ムル國ノ政府カ之ヲ請求スルコトヲ要ス　逃亡犯罪人引渡條例第二條ニハ本條例ニ依リ定ムル所ノ條款ニ據ルニ付テハ締約國ヨリ逃亡犯罪人ノ引渡請求アルコトヲ要スル趣意ヲ明カニシ日米犯罪人引渡條約第五條ニハ「引渡ノ請求ハ締約國相互ノ外交官ヲ經テ之ヲ爲スヘシ若シ外交官其國內又ハ其政府所在ノ地ニ駐留セサルトキハ高等領事官之ヲ爲スヘシ」ト規定セリ

第四章　刑法ノ解釋及ヒ類推

第一節　解釋

第一款　解釋ノ方法

法律ハ死物ナリ自ラ活動シテ行爲ノ範圍ヲ定ムルモノニ非サルハ言ヲ俟タス即チ行政ニ關スル法律ハ行政官及ヒ行政裁判所評定官之ヲ活用シ民事及ヒ刑事ニ關スル法律ハ判事之ヲ活用ス刑法ノ如キ中ニ幾千百ノ詳則ヲ規定スト雖モ判事若シ其語句ト其趣意トヲ精査考覈シテ刑法ノ眞意義ヲ發表スル機關タルニ非サレハ竟ニ刑法ノ活動ヲ見ルコト能ハサルヘシ其手段ハ即チ所謂刑法ノ解釋ト云フモノニ外ナラス

刑法ノ解釋ハ敢テ一般法ノ解釋ト異ナルコトナシ法ヲ解釋スルニ分析的及ヒ綜合的解釋ヲ必要トスル如ク刑法ノ解釋ニモ亦之ヲ必要トシ法ヲ解釋スルニ文法的及ヒ論理的解釋ヲ必要トスル如ク刑法ノ解釋ニモ亦之ヲ必要トス分析的解釋綜合的解釋文法的解釋及ヒ論理的解釋ノ何タルヤハ法學通論ニ於テ既ニ知得セラレタル所ナリト信ス既ニ刑法ハ分析的且綜合的ニ又ハ文法的且論理的ニ解釋スヘキモノトセハ綜合的又ハ論理的解釋ヲ爲シタル結果其語句ノ意義ト其得タル結果トカ相合致スルコトアルヘク或ハ相牴觸スルコトアルヘシ語句ノ意義カ綜合的解釋又ハ論理的解釋ノ結果ト相一致シ何等ノ差異ナキトキハ他ニ何等ノ手段ヲ施ス必要ナシト雖モ若シ語句ノ意義カ其結果ト相一致セサル場合ニ於テハ所謂廣義又ハ狹義ノ解釋ヲ必要トスヘシ狹義ノ解釋トハ刑法ノ語句カ刑法ノ眞意義以上ノ意義ヲ有スル場合ノ解釋ニシテ此場合ニ於テハ語句ノ意義ヨリ狹隘ナル意義ニ決セサルヘカラス廣義ノ解釋トハ刑法ノ語句カ刑法ノ眞意義ノ一部分ノミヲ表示スル場合ノ解釋ニシテ此場合ニ於テハ勢ヒ其語句ノ意義ヨリ廣濶ナル意義ニ解釋セサルヘカラス

然レトモ一般解釋ニ必要ナル方法ヲ盡シテ而モ尚ホ正確ナル意義ヲ得ルコト能ハサランカ須ク「刑疑ハシキトキハ輕キニ斷セヨ」ナル原則ヲ遵守セサルヘカラス此原則ハ羅馬法律ニ胚胎セルモノニシテ確固不拔ノ眞理ナリ蓋シ刑ヲ科シ又ハ重キ刑ヲ科スルハ所謂積極的活動ニシテ刑ヲ科セス又ハ輕キ刑ヲ科スルハ所謂消極的活動ナリ不活動即チ活動ヲ爲ササル場合ニ於テハ何等特別ノ

理由ヲ要セスト雖モ進ミテ積極的ニ活動センニハ必スヤ其活動セサルヘカラサル特別ノ理由ヲ必要ト爲スヤ明瞭ナリトス然ラハ解釋ニ疑似ヲ生シ隨テ積極的ニ活動スル特殊ノ理由ヲ發見スルコト能ハストセハ勢ヒ其活動ヲ止メ比較的輕キ解釋ニ從ハサルヘカラサルナリ

第二款　解釋ノ材料

刑法ハ必ス其刑法ノ主義及ヒ語句ニ基キテ之ヲ解釋セサルヘカラス然レトモ之ヲ解釋スルニ際シテ補助的ノ材料タルモノ亦尠カラス

第一　舊刑法　舊刑法トハ其刑法以前實施セラレタル刑法ヲ謂フモノニシテ一國家ニ於テ新ニ刑法ヲ立法シタル場合ハ今姑ク之ヲ論セス苟モ既ニ存在セル刑法ノ全部又ハ一部ヲ改正セシ場合ニ於テハ舊刑法ノ缺點ハ多クハ改正刑法ニ於テ補充セラルルヲ以テ改正刑法ノ何タルヲ知ラント欲セハ勢ヒ舊刑法ノ研究ヲ爲ササルヘカラス

第二　刑法案　刑法案ハ即チ刑法ノ母ナリ刑法ノ由リテ來ル所ヲ詳ニセスン

墺兩國ノ媾和條約ニテハ戰爭前ノ諸條約ハ總テ有效トスト明言シ同年墺佛兩國ノ媾和條約ニテハ戰爭前ノ諸條約約定ニ付キ特別ノ規定ヲ爲ササリシニ拘ハラス戰爭後ニ於テ實行セラレ千八百六十六年伊墺兩國ノ「ヴィヤナ」條約ニテハ戰爭前ノ諸條約ハ更ニ效力ヲ有スヘキコトヲ特ニ規定シ同年八月普墺媾和條約ニテハ戰爭前ノ諸條約中日耳曼聯邦解散ノ爲メ適用スヘカラサルニ至リタルモノヲ除クノ外ハ其效力ヲ繼續スヘキコトヲ規定シ千八百七十一年佛獨兩國媾和條約ニ於テハ兩國ノ通商航海ノ諸條約及ヒ關稅鐵道版權及ヒ犯罪人引渡條約ノ效力回復ヲ規定シ其他ノ條約ニ付テハ如何ナル規定ヲモ爲ササリシニ拘ハラス其效力ヲ繼續シ日清戰爭ニ於テハ馬關條約第六條ニ「日清兩國間ノ一切ノ條約ハ交戰ノ爲メ消滅シタレハ云云」ト明定シテ新ニ通商航海其他ノ諸條約ヲ締結スヘキモノトセリ

前述ノ如ク開戰ノ條約ニ關スル結果ハ學說實例共ニ一定セサレトモ學理上之ヲ研究セントセハ列國條約ト交戰國間ノミノ條約トニ區別シ更ニ各條約規定ノ性質ニ就キ開戰ニ因リ無效又ハ中止ト爲ルカ若クハ戰爭中效力ヲ有スルモ

ノノ三種ニ區別セサルヘカラス

第一　列國條約ニシテ交戰國雙方カ其締約國中ニ在ル場合ニ於テ其戰爭ハ條約規定ニ如何ナル直接ノ影響ヲモ有セサルモノハ戰爭ノ爲メ其效力ニ變更ナシ例ヘハ千八百六十六年普墺戰爭ニ於テ兩國ハ千八百五十六年三月巴里條約ヲ以テ土國及ヒ其屬國ニ關スル事項ヲ他國ト共ニ約定シタレトモ其戰爭ノ原因ハ東方問題ニ關係ナキヲ以テ巴里條約ハ戰爭中ト雖モ效力ヲ繼續シタルカ如シ

第二　列國條約ニシテ戰爭中ニ於テ單ニ其實行ヲ爲シ得ヘカラサルモノハ其效力ヲ中止シ平和回復ト共ニ之ヲ復舊スヘシ郵便電信ニ關スル列國ノ條約ノ如キ是ナリ

第三　列國條約ニシテ戰爭ノ原因カ其規定ト矛盾シ戰爭ノ結果ハ之ヲ變スヘキモノナルトキハ開戰ト共ニ交戰國間ニ在リテハ其條約ハ效力ヲ失ヒタルモノトセサルヲ得ス何トナレハ此條約ハ第一及ヒ第二ノ條約ト同シク交戰國ハ第三國ト結締シタルモノナルカ故ニ交戰國ノミノ任意ニテ廢棄シ得ヘカラス

ト雖モ戰爭開始ノ爲メ交戰國間ニ在リテハ遵守スヘカラサルモノト爲リタルヲ以テナリ例ヘハ千八百七十七年露土戰爭ニ於テ兩國ハ千八百五十六年巴里列國條約ノ締結國ナル七國中ニ在リタルニ拘ハラス其戰爭ハ同條約ノ規定ヲ動シ露土兩國間ニハ「サン、ステフノ」媾和條約ヲ締結スルニ至リタルカ如シ但此新條約ニ付テハ英國ヲ始メ巴里條約締結國カ之ニ故障シ千八百七十八年伯林會議ヲ以テ新條約ヲ締結シテ其局ヲ結ヘリ

第四　列國條約ニシテ戰爭ノ行爲ニ關スル條約例ヘハ巴里宣言亦十字條約陸戰ノ法規慣例ニ關スル條約ノ如キハ戰爭中ト雖モ之ヲ遵守スヘク又其性質上戰爭中ニ於テ實行ヲ見ルヘキモノトス

交戰國間ノミノ條約ニシテ

第一　領土ノ割讓境界ノ規定又ハ獨立ノ承認ノ如キ永久的性質ヲ有スルモノハ戰爭ノ爲メニ何等ノ影響ヲモ受クルコトナシ千八百十二年英米戰爭カ兩國間ニ存在セシ條約ヲ無效ト爲スヘキヤ否ヤニ付キ紛議ヲ生シ米國政府ハ千八百八十三年米國ノ獨立ヲ承認シタル條約其他カ戰爭ノ爲メニ無效ト爲ラサル

コトヲ主張シ國境ノ確定其國權ニ關スル規定若クハ戰爭行爲ニ關スル諸條約ハ戰爭ノ爲メニ無效ト爲ルモノニ非ス若シ然ラスシテ千七百八十三年ノ條約ヲ以テ米國ノ獨立ヲ承認シ及ヒ國境ヲ確定シタル規定モ開戰ニ因リ無效ト爲リタルモノトセハ千八百十二年ノ戰爭ヲ以テ米國ハ再ヒ建國以前ノ地位ニ立戻リ獨立若クハ革命ノ名義ヲ以テ其戰爭ヲ爲スモノト看ルヘキ不當ノ論結ヲ生スヘシト論シ此理論ハ一般ニ是認セラルル所ナリ

第二　修好條約同盟條約保證條約其他政治上ニ關スル諸條約ハ其性質上戰爭ト兩立セサルカ故ニ開戰ト同時ニ消滅スヘキモノナルコトハ多言ヲ要セスシテ明カナリ

第三　交通通商ニ關スル諸條約例ヘハ通商航海等ノ條約ハ戰爭中其實行ヲ爲ス能ハサレトモ戰爭ニ因リ消滅スヘキヤ將タ其效力ヲ中止シ平和ノ回復ト同時ニ當然復舊スヘキヤニ付テハ學說竝ニ實例ニ於テ未タ一定セサル所ナリ然レトモ此等條約ノ性質タル素ト平和ノ時ニ限リ雙方ノ便宜ニ基キタル規定ニシテ加フルニ永久的ノモノニ非ス然ルニ開戰ト共ニ兩國ノ平和ハ破レタルモノナルヲ以テ其條約成立ノ條件タル平和ヲ失フノミナラス戰爭ノ結果ニ於テハ兩國ノ地位及ヒ相互ノ關係ニ差異ヲ生シ戰爭前ノ條約約定ヲ其儘ニ實行シ能ハサルコト多キカ故ニ此等諸條約ハ其效力ヲ中止スト爲スヨリモ寧ロ開戰ニ因リ消滅ストノ說カ却テ其當ヲ得タルカ如ク若シ媾和ノ際同條約ヲ引續キ實行セントセハ更ニ之ヲ繼續スヘキ特別ノ規定ヲ爲スヘク日清戰爭ニ於テ兩國ノ採リタル見解モ之ト同一ニシテ近世ノ戰爭ニ於テモ之ト異ナル實例ハ稀ナリトス

第四　交戰國間ノミノ條約ト雖モ戰爭行爲ニ關スル條約例ヘハ戰時禁制品其他海上捕獲ニ關スル條約若クハ戰爭中ニ於ケル陣中規約ノ如キハ固ヨリ戰爭中ニ限リテ其實行アルモノニシテ其性質上戰爭ノ場合ヲ豫期シテ其行爲ニ關スル規定ヲ爲シ置キタルカ故ニ開戰ニ因リテ却テ其實行ヲ見ルヘク開戰ノ爲メ決シテ無效ト爲ラサルコト疑ナシ

第二款　交通通商ニ關スル效果

交戰國間ニ於ケル戰爭ハ其性質上平和的ノ國交ト兩立セサルヲ以テ開戰ト共ニ交戰國ハ其外交官及ヒ領事官ヲ召還シ若クハ敵國ノ此等官吏ニ退去ヲ命シ兩國ノ友誼的關係ヲ絶チ戰爭中其人民ハ敵人ナルカ故ニ箇人間ノ交通、通商竝ニ共同事業其他一切ノ平和的行爲ヲ禁セラルルモノトス此故ニ敵人間ニ於テ交通、通商等ヲ爲スハ總テ不法ニシテ開戰前ノ契約ニ付キ其性質上偶、戰爭中ニ履行ノ必要アルモノ又ハ戰爭ノ爲メ目的物ヲ失ヒタルカ如キ履行スヘカラサルニ至リタルモノハ悉ク無效ト爲リ組合其他商業上ノ共同事業ハ開戰ニ因リテ當然解散シ戰爭中兩國人民間ノ訴訟ハ法廷ニ提起スル能ハサルヲ以テ戰爭ノ爲メ履行スヘカラサルニ至リタルモノヲ除ク外ハ其實行ヲ中止シテ媾和ト共ニ之ヲ回復ス又戰爭中兩國人民間ノ結ヒタル契約ハ縱令媾和ノ後ニ於テ履行スヘキモノト雖モ無效ナルモノトス

千八百十四年「ラピッド」號事件ニ於テ米國商人ハ開戰前英國ヨリ物品ヲ購入シ兩國國境ニ於ケル英領、インジャ、島ニ運搬シ置キタルニ開戰ニ際シ同商人ノ他人ハ米國船ヲ以テ之ヲ取寄セタリシカ米國法廷ハ敵國ト交通ノ故ヲ以テ沒收シ其理由トシテ商業ノ平和的關係ハ國家間ノ戰爭關係ト兩立スルコト能ハス此場合ニ於テハ商取引又ハ契約ヲ敵人ト爲シタルニ非サルモ戰爭中敵國ト交通ヲ斷絶スルノ趣旨ハ兩國間ニ一切ノ交通ヲ嚴格ニ斷ツニ在リテ若シ開戰前ニ買入レタルノ故ヲ以テ開戰後敵國ヨリ輸入シ得ヘシトセハ之カ爲メニ甚シキ弊害ヲ生シ敵國人ト諸種ノ詐欺不法ノ取引ヲ營ムノ手段ト爲リ得ヘケレハナリトセリ但人民間ノ交通、通商ヲ禁スルニ關シテハ二種ノ例外アリ交戰國カ其國人民又ハ敵國人民ニ對シ特別ニ之ヲ許可シタルトキハ其特許ノ範圍内ニ於テ之ヲ行ヒ得ヘク又交戰國間ニ於ケル俘虜ノ交換又ハ軍使等戰爭ノ法則上認メラレ居ル交通又ハ約定ハ之ヲ爲シ得ヘキモノニシテ人民間ノ契約モ拿捕物ノ賠償若クハ俘虜ノ生活ニ必要ナル契約ヲ敵國ニ於テ爲シタルカ如キ戰爭ノ結果ニ基因スル契約ハ總テ有效ニシテ戰爭中ト雖モ法廷ニ其訴訟ヲ爲シ得ヘキモノトス

交通、通商ヲ禁スル法則ハ一般ニ學者ノ認ムル所ニシテ英、佛、米、西、蘭等ノ諸國ハ之ヲ厲行シ來リシニ拘ハラス時トシテ交戰國ハ此原則ノ厲行ヲ却テ不便ト爲

スコトアリ斯ル場合ニ於テハ其特許ヲ與フルコト勿カラサルカ故ニ學者中此原則ニ反對ヲ爲ス者アリ「マルテンス」「ヘフテル」ノ如キハ開戰ハ交戰國人民間ノ交通ヲ遮斷スルニ非ス單ニ國家カ特ニ法令ヲ以テ禁止スル範圍内ニ於テノミ通商ノ自由ナキモノトシ「カルヴォー」ハ通商ノ禁止ヲ開戰ノ直接效果ト認メタリト雖モ此原則ハ嚴酷ニ失シ又近世歐洲戰爭ノ實例ニ徵スルモ時勢ニ後レタルモノナリト論セリ此等ノ學說ニ於テ其理由トスル所ハ戰爭ハ箇人間ノ關係ニ非ス而シテ通商ハ箇人的ノ事項ニ屬スルカ故ニ通商ノ自由ハ戰爭中ニ於テモ尊重セラルヘク戰爭ハ曾ニ國家カ政略上ヨリ通商ヲ禁シ得ヘキ一原因ナルニ過キスト云フニ在リ然レトモ交通、通商ヲ自由トスルノ學說ハ之ヲ主張スル日耳曼國學者中ニ於テモ亦有力ナル反對アリテ此學說ハ未タ現行法ト爲スコト能ハサルモノトス

然レトモ交戰國人民間ノ交通、通商ニシテ戰爭ニ不利益ヲ來スコトナク又政治上ノ必要ニ依リテハ國家カ特別ニ之ヲ許スコトアリ「クリミヤ」戰爭ニ於テ英佛兩國ハ各、其自國人民ニ對シ露國ノ封鎖セサル諸港ニ第三國ノ船舶ヲ以テ戰時禁制品以外ノ商業ヲ營ミ得ヘキコト許可シ露國モ兩國人民ノ商品ハ中立國舶ニ依リテ其輸入ヲ公許シ千八百六十年阿片戰爭ニ於テモ英佛兩國ハ清國トノ商業ヲ許可シ日清戰爭中我國人民ノ清國商業ニ從事スルヲ禁セサリシハ其適例ニシテ此等ノ場合ニ於テハ交戰國ノ政略上其人民ノ通商ヲスルノ必要ナタ之ヲ禁スルハ却テ自國ノ不利益ナリシカ故ニ政府ニ於テ特ニ許可シタルニ過キスシテ原則トシテハ開戰ト同時ニ交通、通商ヲ禁スルモノトス隨テ「クリミヤ」戰爭及ヒ阿片戰爭ニ於テハ交戰國カ特別ノ法令ヲ以テ之ヲ許シ日清戰爭中我人民ノ通商ニ從事シタルハ政府ノ默許ニ出テタルモノト解釋セサルヲ得ス之ト同一理由ニ依リ軍隊占領地ニ於テモ占領地人民ニ對シ敵國管轄内ニ在ル人民トノ交通、通商ヲ禁シ國家カ特別ニ許可シタル場合ニ限リ其許可ノ範圍内ニ於テ之ヲ爲シ得ヘク此場合ニ於テハ其條件ヲ嚴格ニ守ラサルヘカラス

第三款　內地ニ於ケル敵國人民及ヒ財產ニ關スル效果

前ニ述ヘタル所ハ交戰國相互間ニ於ケル交通通商ノ關係ニシテ開戰ノ際自國ニ在留スル敵國人民ニ關シテハ之ヲ區別セサルヘカラス此點ニ關シ現行法ノ慣例トシテハ敵國人民ノ善良ナル行爲アル間ハ戰爭中內地ニ在留ヲ許スヲ普通トシ其在留ヲ許サレタル人民ハ自國人民ト交通通商ヲ禁セラルルコトナク又國家カ其人民ニ退去ヲ命スル必要アルトキハ其財產ヲ纏メテ歸國スルニ付キ相當ノ時間ヲ與ヘサルヘカラス總テ開戰ニ關シ敵國人民ハ必スシモ本國ニ在ルニ限ラス敵國ニ在ルコトアリ第三國ニ止マルコトアリ就中對敵國ノ內地ニ在留スル場合ニ於テ戰爭ノ原則トシテハ國際公法上特別ナル反對ノ慣例ナキ限ハ國家カ之ニ保護ヲ拒ミ得ヘキノミナラス其人民ヲ追放シ又ハ勾留シ得ヘク「プロシュース」モ之ヲ俘虜ト爲シ得ヘキコトヲ說キタレトモ商人ニ限リテハ其業務ノ性質上兩國間ニ於ケル產物ノ有無ヲ互ニ交換シテ兩國ノ利益ヲ進ムルモノナリトノ理由ニ據リ中世ニ於テモ開戰ノ際之ヲ勾留セスシテ退去セシムルノ慣例アリ又第十七世紀以後ニ於テハ諸國ハ條約ヲ以テ一般ノ敵國人民ニ對シ一定ノ時間ヲ與ヘテ退去セシムルコトト爲シタルモノ多ク第十八世紀ノ初ヨリ漸ク自國內ニ在ル敵人ヲ條約ノ有無ニ拘ハラス俘虜ト爲ササルコトト爲リ「ヴァテル」ハ開戰ノ際其退去ニ必要ノ時間ヲ與フヘキモノトシ其理由トシテ國家カ始メ其國內ニ外國人ノ入リ來ルコトヲ許シタルハ暗默ニ之ニ保護ヲ與ヘ其歸國ニ關シテ安全ヲ保證シ得タルモノトシ最近百五十年間ニ於テ內地ノ敵國人民ヲ俘虜ト爲シタル唯一ノ實例ハ千八百三年那破翁カ英國ノ行ヒタル不法行爲ノ報仇トシテ佛國ニ在ル十八歲以下六十歲以下ノ英國人ヲ俘虜トシタルノ事實アルニ止マリ此行爲ハ一般ノ批難アル所ニシテ又報仇ニ出テタルモノナルカ故ニ一般法則ヲ例外ト看ルヘキモノトス然レトモ國家カ其必要ニ基キ豫メ期限ヲ定メテ敵國人民ニ退去ヲ命シタル場合ニ於テ其退去ヲ爲ササルカ又ハ其人民ノ行爲カ自國ニ不利益ナルトキ若クハ軍人其他戰爭ニ關シ敵國ノ有力者ニシテ其歸國ハ戰爭上自國ニ甚シキ不利益アルトキハ交戰國ノ政略上其歸國ヲ妨ケ得ヘキモノトス

加之近世ニ於テハ敵國人民ニ退去ヲ爲サシムル慣例ニ一歩ヲ進メ非常ノ場合ニ於テノミ其退去ヲ命シ得ヘク特別ノ理由ナキ限ハ其人民ノ平穩ニシテ善良

ノ行爲アル間ハ自國ニ在留ヲ許スコト普通ト爲レリ此慣例ノ生シタルハ千七百五十六年英佛戰爭中英國カ佛國人民ニ對シ其在留ノ繼續ヲ許可シタルヲ始トシ那破翁戰爭以後ニ於テハ縱令條約ナキ場合ニ於テモ交戰國ハ國法ヲ以テ戰國人民ニ在留ノ許可ヲ爲スニ至レリ然レトモ現今ニ於テハ其在留ノ許可ニ付テハ必ス法律ヲ以テシ又善良ノ行爲アル間ヲ條件トシ日清戰爭ニ於テモ我國ハ明治二十七年八月四日ノ勅令ヲ以テ清國人民ノ善良ノ行爲アル間我國ニ在留ヲ許可セリ此故ニ國家ハ必スシモ敵國人民ニ在留ヲ繼續セシムヘキ義務アリト爲スコト能ハスシテ必要アルトキハ其在留ヲ拒絕シ得ヘク千八百七十年八月佛國政府ハ獨逸國人民カ本國軍隊ニ內應ノ嫌疑アリタルカ故ニ巴里及ヒ「セイン」地方ヨリ三日間ノ猶豫ヲ以テ全然佛國ヲ退去スルカ又ハ「ロアール」河ノ以南ニ退去スヘキコトヲ命シ又其退去ニ關シテハ戰爭後ニ於テモ之カ損害ヲ同人民ニ賠償シタルコトナシ

內地ニ在ル敵國ノ財產ハ敵國政府ニ屬スルモノト人民ニ屬スルモノトアルノミナラス其性質上動產及ヒ不動產ノ區別アリ就中政府カ他國ニ於テ土地其他產上人類ノ負擔スル勞苦ヲ輕減スルノ效能アルモノトス往昔「アリストートル」ハ自動織機現出スルニ非サレハ奴隸制度ヲ廢止シ難シト言ヘリシカ現今自動織機ハ盛ニ使用セラレテ人類ノ體力的勞働ヲ輕減スルヲ見ルニ至レリ其他此等ノ實例枚擧ニ遑アラサルナリ

之ヲ要スルニ生產ノ初期ニ於テハ人類ハ殆ト全ク自然ニ支配セラルルモノナレトモ資本ノ力ニ依リ次第ニ自然ヲ操縱シ而シテ其資本ノ增殖スルニ隨ヒ自然ヲ支配スルノ力益〻大ナルヲ致スナリ故ニ資本ハ殆ト產業發達ノ基礎ト謂フモ不可ナク資本不足ナルニ於テハ產業ノ振興ヲ望ムヘカラサルナリ

第三節　生產資本ノ成立及ヒ增殖

生產資本ハ如何ニシテ成立シ又如何ニシテ增殖スルモノナリヤ或ハ生產ノ結果ナリト爲ス者アリ或ハ之ヲ節約貯藏ニ歸スル者アリト雖モ此二說ハ共ニ眞理ノ半面ノミヲ觀タルモノニシテ資本ハ實ニ此二者ニ因リテ成立シ又ハ增殖スルモノナリ例ヘハ野蠻人ノ有スル弓矢ノ如キ亦一種ノ資本ナリ此資本ノ成

立ヲ觀ルニ自然ノ給スル材料ニ勞働ヲ加ヘテ生産セルモノナルカ故ニ此弓矢ハ生産ノ結果ナリトス然レトモ之カ爲メニ其成立ヲ生産ノミニ歸スルコトヲ得ス更ニ進ミテ研究セサルヘカラサルモノアリ即チ此野蠻人ヲシテ此生産ニ從事スルコトヲ得セシメタルコト是ナリ假ニ此弓矢ヲ作ルカ爲メニ十日ヲ費シタリトセンニ此十日間ハ彼ハ如何ニシテ生活セシヤ即チ彼ハ弓矢ノ製作ニ著手スルニ先チ日日ノ食物ヲ節約貯藏シテ以テ十日間ノ準備ヲ爲ササルヘカラス然ラハ則チ弓矢ハ直接ニハ生産ノ結果ナリト雖モ此生産ニ從事スルコトヲ得セシメタルモノハ前日ノ節約貯藏ナルカ故ニ此節約貯藏ヲ以テ資本成立ノ一要素ト爲ササルヲ得サルナリ此野蠻人ハ既ニ弓矢ヲ得タルカ故ニ野獸ヲ捕獲スルコト從前ヨリモ多カルヘシ而シテ此等ノ捕獲物ヲ日日食シ盡シテ毫モ遺留スルコトナクンハ其資本ハ決シテ增殖セサルナリ然ルニ其捕獲物ヲ節約貯藏スルトキハ更ニ他ノ資本例ヘハ小舟ノ製作ニ從事スルコトヲ得ヘキナリ故ニ第二ノ資本タル小舟モ亦節約貯藏ト生産トノ結果ナリト謂フヘシ今日ノ如ク複雜セル社會ニ於テ資本ノ成立シ增殖スルハ右ニ述ヘタルカ如ク簡單ナルモノニ非スト雖モ其原理ニ於テハ異ナルコトナキモノトス例ヘハ鐵道ノ如キ機械ノ如キ直接ニ消費ニ供シ得ヘカラサル財貨即チ一種ノ資本ノ製作ニ從事スルコトヲ得ル所以ノモノハ從來社會カ存在セル財貨ヲ直チニ消費セスシテ之ヲ節約貯藏シタルヲ以テナリ

第四節　機械

器具ト機械トハ其間ニ截然タル區別ヲ設クルコト甚タ難シト雖モ之ヲ概言スレハ器具ハ其構造簡單ニシテ唯人體ノ四肢ヲ裝甲シ若クハ之カ代用ヲ爲スニ過キサルナリ之ニ反シテ機械ハ其構造複雜ニシテ其動作ハ多少自動ノ性質ヲ有シ而シテ其原動力ハ牛馬ノ體力、水力、風力、蒸氣力、電氣力等ナリトス

機械ハ之ヲ大別シテ二種トス即チ第一ヲ動力機械ト稱シ勢力ヲ發シ人類ノ體力ニ代ルモノヲ謂フ蒸氣機關、發電器ノ如キ是ナリ第二ヲ勞働機械ト稱シ諸般ノ動作ヲ爲シテ人類ノ熟練ニ代ルモノヲ謂フ紡績機械、織物機械ノ如キ是ナリ

機械ノ長所ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一　機械ハ非常ニ強大ナル勢力ヲ發スルコトヲ得

第二　機械ハ動作均一ニシテ且精密ナルコトヲ得ルノミナラス動作迅速ニシテ休息ノ必要ナキコトハ人類ノ勞働カ疲勞等ニ因リテ始終均一ナル動作ヲ爲スコトヲ得サルト大ニ其趣ヲ異ニスルモノトス

第三　數多ノ機械ハ之ヲ取扱フニ強大ナル體力ヲ要セス紡績機械等ハ男子ノ強力ナル手ヲ以テ使用スルヨリモ却テ女子ノ纖弱ナル手ヲ以テ使用スルコト

生産上却テ利益ナリトスルカ如シ

以上ノ原因ニ基キ機械カ生産上如何ナル影響ヲ及ホスヤヲ見ルニ次ノ如シ

第一　從來未曾有ノ生産事業ヲ成立セシムルコトヲ得ルナリ

第二　生産物ノ産額ヲ增加スルコト大ナリ　數多ノ生産ハ機械ノ力ヲ藉ラサルモ之ヲ行フコトヲ得ルモノアリ然レトモ機械ヲ用フルトキハ其産額ヲ增加スルコト大ナリ之ヲ英國ノ木綿工業ノ歷史ニ徵スルニ棉花輸入額ノ增加ハ木綿工業ノ發達ヲ示スモノニシテ棉花ノ英國ニ輸入セル額ハ機械ノ發明改良又ハ蒸氣機關ノ應用ニ伴ヒテ增加セルヲ見ルナリ

第三　生産物ノ品質ヲ善良ナラシム　機械製造ノ物品ハ外觀美ナリト雖モ手工製造ニ比スレハ薄弱ナリト曰フ者アレトモ機械製造ノ物品ニ粗惡ナルモノアルハ機械ノ罪ニ非スシテ製造業者初ヨリ粗惡廉價ノ物品ヲ製造スルヲ以テ目的トスルカ故ニ斯ル結果ヲ來スモノトス

第四　機械ハ人力ヲ省キ且多量ノ生産ヲ爲シ得ルカ故ニ生産費ヲ減シテ物品ノ代價ヲ低廉ナラシム　機械使用ノ當初ニ於テハ生産費ノ減少ヨリ生スル利益ハ機械ノ所有者ニ歸スレトモ機械ノ增加スルニ隨ヒ漸次競爭ヲ生シ其代價ヲシテ遂ニ生産費ニ近カラシムルニ至ル英國ニ於ケル綿絲綿布ノ價ノ次第ニ低落セルカ如キハ顯著ナル實例ナリトス

機械カ生産ニ及ホス影響ハ右ニ述ヘタルカ如クニシテ社會全般ニ利益ヲ與フルコト大ナリトス然レトモ亦多少ノ弊害之ニ伴フモノアルヲ見ルナリ

第一　機械ノ應用ニ因リ手工職工中其職業ヲ失フ者アリ　即チ勞働分配既ニ行ハレ職工各〻其業ヲ以テ生活スルニ當リ機械工業起リテ職工多年ノ熟練ヲ無用ニ屬セシメ以テ窮厄ニ陷ラシムルコトアルナリ而シテ此困難ハ唯リ職工ノ

ミナラス機械ノ所有者モ亦其弊ヲ被ルヘキナリ即チ機械ノ發明改良相隨クトキハ舊式ノ機械ハ新機械ニ對シテ競爭スルコト甚タ難シトス

第二　機械ノ應用盛大ナルニ隨ヒ工業社會ニ於ケル貧富ノ懸隔益〻大ナルニ至ル　即チ機械ハ多クハ其價大ニシテ設置ニ費用ヲ要スルコト尠カラサルカ故ニ富者ニ非サレハ之ヲ使用スルコト甚タ難ク隨テ有力ナル機械ヲ使用シ得サル者ハ遂ニ競爭ニ失敗シテ益〻貧弱ト爲ルナリ

第三　機械工業ハ婦女幼者ヲシテ過度ニ勞働ヲ爲サシメ又家族團欒ノ幸福ヲ破リ以テ勞働社會ノ衛生道德ヲ害スルノ弊アリトス

然レトモ以上ノ弊害ハ往往世人ノ唱フルカ如ク大ナルモノニ非スシテ他ノ方面ヨリ之ヲ矯正緩和スルコトヲ得サルニ非ス例ヘハ一種ノ機械發明セラルルヤ從來ノ手工職工ハ一時其業ヲ失フ者アリト雖モ此機械ノ使用盛大ニ趨クト共ニ勞働者ヲ要スルコト益〻多ク其數却テ曩ニ失業セル者ヨリ多キニ至ルヘシ又一種ノ工業機械ノ應用ニ因リ隆盛ヲ致ストキハ他ノ工業モ亦之ニ誘ハレテ振興シ隨テ勞働ノ需要ヲ增加スルヤ必セリ故ニ機械ノ應用ハ結局勞働ノ需要ヲ減殺スルモノニ非ス例ヘハ鐵道事業ノ發達ト共ニ他方又ハ郡府内ノ運輸事業モ亦共ニ發達スルカ故ニ運搬ニ從事スル勞働者ノ數ハ却テ增加スルモノナリ又機械ヲ使用スル工業ト然ラサルモノトヲ比較スルニ後者ハ之ヲ中止スルコト前者ヨリモ甚タ容易ナリ故ニ機械工業ノ勞働者ハ手工業ノ勞働者ヨリモ其職ヲ失フコト尠ク隨テ一層安全ナル地位ニ在ルモノトス

此ノ如ク機械ノ應用ハ往往世人ノ怖ルルカ如ク勞働者ノ境遇ニ不利ヲ來スモノニ非ス現ニ英國木綿工業ノ中心ナル「ランカシヤ」ニ於テハ勞働者ノ境遇漸次進歩セルハ明白ナル事實ナリトス然レトモ勞働者ニシテ獨立ノ精神ニ乏シク又勞働者ノ組合等未タ成立セサル時ニ當リ之ヲ資本家ノ利己心ニノミ放任スルトキハ勞働者ハ其境遇ヲ改良スルヲ得サルナリ故ニ國家ハ法規ヲ設ケテ勞働者ノ衛生道德ヲ保護セサルヘカラス之ヲ要スルニ機械ナルモノハ之ヲ應用スルニ當リ多少ノ弊害ヲ生スルハ到底避クヘカラスト雖モ其利益ニ比スレハ言フニ足ラサルヲ以テ機械ノ應用ハ益〻盛大ナランコトヲ希望セスンハ非サルナリ

第五章　企業

第一節　企業ノ意義及ヒ其必要

曩ニ述ヘタルカ如ク生產ハ自然勞働資本ノ三要素相結合スルコトヲ要スルモノタリ而シテ此三要素ハ其所有者ヲ異ニスル場合多ク即チ勞働者ハ資本ヲ有セス資本ヲ有スル者必スシモ土地ヲ有セサルカ故ニ此等ノ要素ヲ集メテ之ヲ結合スルノ必要アリトス是レ即チ企業ノ起ル所以ナリ

生產ノ三要素ヲ集メ損失ノ危險ヲ冒シ以テ生產ノ事業ヲ行フヲ企業ト稱シ之ヲ廣義ニ解スルトキハ自己ノ欲望ヲ滿足セシムルヲ以テ目的トスル場合ヲモ含蓄スト雖モ狹義ニ之ヲ解スルトキハ自己ノ計算ヲ以テ他人ヨリ受クル報酬ヲ豫期シ以テ他人ノ爲メニ財貨ヲ生產スルヲ企業ト稱ス蓋シ發達セル經濟社會ニ於テハ勞働分配行ハレ自己ノ消費スルモノハ他人ノ生產ニ係リ自己ノ生產スルモノハ他人ノ消費ニ供スル場合最モ多シトス而シテ豫メ他人ノ注文ヲ待タス現在ニ於テ既ニ起リ又未來ニ於テ將ニ起ラントスル社會公衆ノ欲望ヲ測定シ此欲望ヲ滿足スヘキ財貨ヲ生產スルヲ完全ナル企業ト稱ス不完全企業トハ豫メ注文ヲ待チテ後生產ニ從事スルモノナルヲ以テ不完全企業ハ危險勞キモ完全企業ハ危險ヲ冒スコト大ナリトス

抑モ企業ナルモノハ土地資本ノ私有制度成立シ自由競爭行ハルル社會ニ於テハ必然起ルヘキ現象ニシテ素ト各個人ノ利己心ニ基クト雖モ社會全般ニ利益ヲ與フルモノトス

第一　企業ハ社會ノ各個人自ラ生產スルヨリモ價廉ニ生產スルコトヲ得何トナレハ企業者ハ廉價ナル原料ヲ買入ルルコトヲ得而シテ製作品一個ニ付テ得ントスル利益ハ必スシモ多キヲ期セサレハナリ又利益損失共ニ一身ニ歸スルヲ以テ最モ有效ナル生產ノ方法ヲ用ヒ以テ生產費ノ減少ヲ計レハナリ

第二　所謂完全企業ニ於テハ注文ヲ待タスシテ生產ヲ爲スカ故ニ社會公衆ノ欲望ハ立ロニ之ヲ滿足セシムルコトヲ得ルナリ

之ヲ要スルニ企業者殊ニ大企業者ハ今日經濟社會ノ將帥ニシテ巨額ノ資本ヲ集メ數多ノ勞働者ヲ率ヒ以テ生產ヲ指揮進行セシムルモノトス社會主義ノ論

者ハ企業ヲ有害無用視スト雖モ社會主義ノ國家ニ於テモ亦生產ヲ指揮監督スル役員ヲ要スルヤ必セリ

第二節　單獨企業及ヒ共同企業

單獨企業トハ一人ノ企業者カ其企業ニ關スル責任ヲ一身ニ負擔シ企業ヨリ生スル利益損失共ニ全ク企業者一人ニ歸スルモノヲ謂フ是レ企業ノ形式中最モ簡單ナルモノニシテ又最モ普通ニ行ハルルモノトス其長所ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一　利己心ノ動作最モ强ク隨テ其業務ヲ行フコト最モ熱心ナリ

第二　他人ニ制肘セラルルコトナキカ故ニ迅速機敏ナル處置運動ヲ爲スコトヲ得ルナリ

又單獨企業ノ短所ヲ數フレハ左ノ如シ

第一　一箇人カ有スル身體上竝ニ心意上ノ能力ニハ自ラ限アリ又一箇人ノ有スル資本ハ非常ニ增加スルコト難キカ故ニ單獨企業ハ此二種ノ制限ニ因リ業務ノ範圍自ラ狹隘ナラサルヲ得サルナリ

第二　單獨企業ハ全ク企業者一人ニ依リテ成立スルモノナルカ故ニ企業者ニ疾病、老衰、死亡等ノ不幸生スルトキハ其企業ハ廢滅ニ歸スルコト多シトス

單獨企業ハ各種ノ生產事業ニ適用シ得ヘク殊ニ小企業ニ適スルヤ明カナリ小企業ト大企業トハ其間ニ區別ヲ設クルコト難シト雖モ要スルニ小企業ニ於テハ生產額大ナラス生產物ハ主トシテ小區域ノ需用ニ應スルニ止マリ而シテ企業者自ラ生產ニ直接ナル勞働ニ從事シ隨テ其智識及ヒ社會上ノ位置他ノ補助勞働者ノ地位ト大差ナキナリ之ニ反シテ大企業ニ至リテハ資本ヲ用フルコト多ク生產ノ目的ハ廣ク社會公衆ノ欲望ヲ滿足スルニ存シ而シテ企業者ハ體力的ノ勞働ニ從事セス智識、財產、地位等遙ニ勞働者ノ上ニ位スルモノナリ此ノ如ク大企業ハ資本ヲ要スルコト大ニシテ其事業ヲ處理監督スルハ一人ノ爲シ易カラサル所ナルヲ以テ茲ニ共同企業ノ必要ヲ見ルナリ

共同企業トハ二人以上結合シテ或ハ資本ヲ合セ或ハ勞働ヲ共ニシ以テ生產ニ從事シ隨テ其利益損失共ニ之ヲ分配スルヲ謂フ而シテ共同企業ノ形式重要ナ

ルハ會社ナリトス

第一　合名會社　合名會社ハ各社員カ企業ニ要スル勞働ト資本トヲ共同ニ供出スル會社組織ニシテ社員ハ各自ノ全財產ヲ以テ會社ノ義務ヲ保障スルノミナラス其業務モ亦共同ニ之ヲ經營スルヲ以テ本旨トス此種ノ會社ハ或ハ同一ノ企業ナレトモ數箇ノ場所ニ於テ殊別ノ處理ヲ要スルカ如キ或ハ同一ノ場所ニ於ケルモ一人ノ兼備セサル數種ノ才能ヲ要スルカ如キ或ハ事業ノ性質上普通ノ雇人ニ依託スルコト能ハサルカ如キ場合ニ用ヒテ殊ニ適當ナリトス然レトモ單獨企業ニ比スレハ事件ノ處理決行上多少遲滯スルコトヲ免レス且社員間ノ意思相合セサル場合ナシトセサルナリ而シテ合名會社ハ社員ノ數少キカ故ニ社員ノ死亡等ニ因リ永續甚タ困難ナリトス

第二　合資會社　合資會社ハ有限責任社員ト無限責任社員トヨリ成リ無限責任社員ハ企業ニ要スル勞働ト資本トヲ供出スルコトハ合名會社ノ社員ニ異ナルコトナシト雖モ有限責任ナル多數ノ社員ハ唯資本ヲ供出スルノミ然レトモ其供出スル資本ハ株式會社ノ株式ノ如ク自由ニ移轉スルコトヲ得サルカ故ニ

互ニ深ク信用スル者ニ非サレハ合資會社ヲ組織スルヲ得サルナリ隨テ巨額ノ資本ヲ集ムルコト難シトス

第三　株式會社　株式會社トハ會社ノ資本ヲ株式ニ分チ其義務ニ對シテ會社財產ノミ責任ヲ負フモノヲ謂フ其長所ヲ左ニ舉ケン

(イ)　株式會社ノ社員ハ其株金ノミヲ以テ責任ヲ負ヒ且其株式ハ容易ニ之ヲ賣却スルコトヲ得ルヲ以テ株式會社ノ事業ト社員ノ一身トハ密接ナル關係ヲ有セサルナリ之カ爲メニ株式會社ハ容易ニ多額ノ資本ヲ集メ得ルナリ

(ロ)　株式會社ハ社員ノ老衰死亡等一箇人ノ關係ニ因リテ直接ノ影響ヲ被ラサルカ故ニ事業ノ永續ニ適スルナリ

(ハ)　株式會社ハ會社ノ狀況及ヒ其事業ノ成蹟ヲ公告セサルヘカラサルヲ以テ世人ノ信用ヲ受クルコト自ラ厚キナリ

(ニ)　業務擔當者ニ適當ナル人物ヲ得ルノ便宜ヲ有ス　單獨事業ニ於テハ縱令其規模大ナルモ之ニ從事スル者ハ其資本主ニ對シテ多少隸屬的關係ヲ有スト雖モ株式會社ノ業務擔當者ハ其位置大ニ獨立ノ觀アリ殊ニ大會社ノ業務擔當

社員ニ至リテハ社會上ニ於ケル地位モ亦高キカ故ニ有爲ノ才ヲ抱ク者好ミテ株式會社ノ業務擔當員ト爲ルナリ

次ニ其短所ヲ數フレハ左ノ如シ

(イ) 株式會社ハ多數ノ株主ヨリ成ルモノナルカ故ニ意見ノ一致ヲ缺キ相爭フコトアルヲ免レス又重要ノ事件ハ株主總會ノ決議ヲ要スルカ故ニ時機ヲ失シ業務ノ遲滯ヲ來ス等ノ虞アリ

(ロ) 株式會社ノ株主ハ其責任其株金ニ止マルカ故ニ會社ニ對スル注意十分ニ深カラス業務擔當者モ亦寧ロ被傭者ノ地位ニ立ツモノナレハ其業務ニ熱心ナルコト合名會社ノ社員若クハ單獨企業ノ當事者ノ如クナルヲ得サルナリ

(ハ) 株式會社ノ業務ハ監督等種種複雜ナル手續ヲ要スルカ故ニ營業ノ費用自ラ大ナリ

株式會社ハ以上列擧セルカ如キ長所ト短所トヲ有スルカ故ニ事業ノ大小又ハ其種類ニ依リ或ハ適シ或ハ然ラサルナリ例ヘハ些少ナル資本ヲ以テ經營シ得ヘキ事業又ハ變遷ノ迅速ナル事情ニ應スヘキ企業ニハ適セサルナリ之ニ反シテ資本殊ニ固定資本ヲ要スルコト大ナル事業嚴正ナル規則ニ依リ殆ト器械的ニ營業ヲ爲シ得ル事業ニハ株式會社ノ能ク適合スルヲ見ルナリ例ヘハ鐵道航海業ノ如キ銀行保險業ノ如キ又紡績業機械製造等ノ工業ノ如キ是ナリ

又株式會社カ社會全般ニ及ホス利害ヲ觀ルニ左ノ如シ

(イ) 巨額ノ資本ヲ要シ到底一箇人ノ企圖シ能ハサル事業利益ノ見込アルモ危險之ニ伴ヒ何人モ自己ノ全財產ヲ賭シテ從事スルコト能ハサル事業收益尠キモ公衆一般ニ利益ヲ與フル事業等ノ如キハ株式會社ノ組織ヲ藉ルニ非サレハ之カ成立ヲ見ルコト難シトス例ヘハ鐵道海底電信運河ノ如キハ株式會社ノ組織ニ依リ始メテ成立スルモノトス殊ニ大資產家尠キ國ニ於テハ右ニ述ヘタルカ如キ事業ヲ行フニ於テ株式會社ノ功大ナリトス獨逸ノ經濟學者「コンラード」曰ク「獨逸ニ於テハ大資產家少ク且實業ニ從事スルコトヲ好マサル者多シ而シテ第十九世紀ノ後半ニ於テ佛國英國ニ對シ經濟上ノ競爭ヲ爲シ得ルニ至レルハ株式會社ノ制度ニ負フ所大ナリ」ト然ラハ則チ我國ニ於テ株式會社ノ制度ノ必要ナルコト言フヲ俟タサルナリ

(ロ) 少額ノ資本ヲ集メテ巨額ノ資本ヲ組成シ以テ一國ノ資本ヲ增加シ且少額ナル資本ノ所有者ヲシテ大企業ヨリ生スル利益ヲ得セシムルモノナリ

(ハ) 茲ニ述ヘタルカ如ク有爲ノ才ヲ抱ク者好ミテ株式會社ニ入ルカ故ニ社會ノ人才ヲシテ民間ニ於ケル諸種ノ事業ニ從事セシメ人才ヲシテ政府ニノミ集マルノ弊ヲ除クコトヲ得ルナリ

然レトモ株式會社モ亦社會ニ害毒ヲ及ホササルニ非ス其主ナルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

(イ) 株式會社ハ狡猾ノ徒カ公衆ヲ欺クノ手段ト爲ルコト尠カラス殊ニ企業熱盛ナルニ當リ種種ノ株式會社ノ興ルヤ世人ノ株式募集ニ應スル者多ク而シテ其破綻ヲ來スニ於テヤ損失ヲ被ル者ハ中流以下ノ小資本家ニ多シトス恐慌ノ歷史ヲ見ルニ投機的ノ株式會社無數ニ成立シテ其忽チ倒ルルニ基因スル場合尠カラストス

(ロ) 平日ニ於テモ株式會社ノ株式ハ所謂投機賣買ニ適スル材料ヲ供スルモノニシテ社會全般ニ投機ノ念慮ヲ誘起增長セシムルノ傾向アリトス取引所ニ於ケル定期賣買ノ利害ニ關シテハ之ヲ一概ニ論スルコト能ハスト雖モ投機ノ念慮ヲ社會全般ニ普及セシムルハ不可ナリトス

(ハ) 株式會社ハ所謂過剩生産ヲ生セシムルノ傾向アリ即チ株式會社ハ資本ノ增加ニ便ナルカ故ニ世上ノ好景氣ニ乘シ其規模ヲ擴張シ其生産ヲ增加スルモ景氣一變シテ世上ノ需要減少スルニ及ヒ規模ヲ縮少スルコト難ク且單獨企業ト異ナリ利益配當ヲ爲サスシテ事業ヲ進行スルコト容易ナルヲ以テ生産額ヲ減少セス隨テ過剩生産ヲ來シ過剩生産ハ屢恐慌ノ原因ト爲ルモノトス

株式會社ノ弊害ハ以上述フルカ如シト雖モ利害相伴フハ事物ノ免レサル所ニシテ株式會社ハ茲ニ述ヘタルカ如ク一國ノ經濟發達上其有要ナル企業組織ナリト謂ハサルヘカラス

第四　株式合資會社　株式合資會社ハ有限責任社員ト無限責任社員トヨリ成リ其有限責任社員ハ其持分ヲ株式ニ分チ容易ニ之ヲ融通スルコトヲ得ルコト恰モ株式會社ノ株式ニ同シク又其無限責任社員ハ連帶無限ノ責任ヲ以テ會社ヲ代表シ其業務ヲ執行スルノ任ニ當ルコト恰モ株式會社ノ取締役ト合資會社

ノ業務擔當社員トノ兩資格ヲ兼ヌルカ如シ即チ此種ノ會社ハ合資會社ト株式會社トノ中間ニ位スルモノニシテ或程度ニ於テ雙方ノ長所ト短所トヲ併有スルモノタリ

第三編　財貨ノ交易

第一章　交易及ヒ價格ノ意義

第一節　交易ノ意義

抑モ社會未タ發達セス人類ノ欲望尚ホ少許ナルニ當リテハ之カ滿足ニ必要ナル財貨ハ各人自ラ生產シテ敢テ他人ノ補助協力ヲ要セス所謂單獨的經濟ヲ行ヒテ不足ヲ感セスト雖モ文化漸ク進歩シ人類ノ欲望增加スルニ及ヒテハ己ノ生產スル財貨ノミヲ以テ之ヲ滿足スルコト能ハス又時時自己ノ欲望ヲ滿足シテ尚ホ餘アル財貨ヲ有スルコトアルヘク遂ニ自己ノ有スル財貨ヲ以テ他人ノ有スル財貨ト交易スルノ便利若クハ必要ナルヲ知ルニ至ルナリ而シテ彼ノ勞働分配ナルモノハ財貨ノ交易行ハレテ始メテ社會ニ起ルモノナレトモ財貨ノ交易ハ勞働分配ニ依リテ益其範圍ヲ擴張スルコトヲ得ルナリ故ニ財貨ノ交易ト勞働分配トハ或ハ原因ト爲リ或ハ結果ト爲リ以テ互ニ相援クルモノトス

現今ノ社會ニ於テハ財貨ノ交易ハ極メテ重要ナル現象ナリトス即チ自產自費ノ風習次第ニ減退シ自己ノ生產スル財貨ハ多クハ直接ニ自己ノ欲望ヲ滿足セシムルニ非ス又自己ノ消費スル財貨ハ主トシテ他人ノ生產ニ係リ且最初ノ生產者ト最終ノ消費者トハ直接スルコト寧ロ稀ニシテ其間數多ノ交易行ハレ而シテ後始メテ財貨ハ消費者ノ手ニ歸スルモノトス

財貨ノ交易ハ論理上正確ニ之ヲ解釋スルトキハ生產ノ一種ナリ何トナレハ自己ニ對シテ比較的效用尠キ財貨ヲ以テ比較的效用多キ財貨ト交換シ以テ雙方ノ財貨ノ效用ヲ增加スルモノナレハナリ財貨ノ交易ニシテ生產ノ一種ナルトキハ生產編ニ加フルヲ以テ至當ト爲スヘシト雖モ論スヘキ事項ノ多クシテ且重要ナルカ故ニ特ニ一編ヲ設クルナリ

世人或ハ曰ク交易ハ同一ノ價格ヲ有スル財貨ヲ交換スルモノナレハ雙方共ニ利益スル所ナシト或ハ曰ク交易ニ依リ一方利益スル所アレハ他ノ一方ハ損失

ヲ被ルヘキナリト是レ共ニ交易ノ性質ヲ解セサルモノトス例ヘハ玆ニ甲乙二人アリ甲ハ米三石ト織物六十反トヲ有シ其效用相等シトス乙ハ米二石ト織物六十反トヲ有シ其效用亦相等シトス即チ甲ニ於テハ米一斗ノ效用ハ織物二反ノ效用ニ當リ乙ニ於テハ米一斗ノ效用ハ織物三反ノ效用ニ等シキナリ故ニ甲若シ米一斗ヲ以テ乙ノ織物二反半ト交易スルトキハ甲ハ效用織物二反ニ等シキ米一斗ヲ與ヘテ織物二反半ヲ得乙ハ織物二反半ヲ以テ三反ノ效用ニ等シキ一斗ノ米ヲ得タルモノニシテ雙方利益スルモノトス而シテ財貨ノ效用ハ通常其數量ノ增加スルト共ニ增加スルモノナレトモ其限界的效用ハ却テ減少スルモノナルカ故ニ甲ニ於テ米減シテ織物增加スルトキハ其效用ノ比例變化シ乙ニ於テモ亦然リトス故ニ竟ニ交易スルモ利益ナキノ點ニ達スヘキナリ限界的效用トハ何ソヤ例ヘハ米一斗ヲ有スルニ當リ更ニ一升ヲ加ヘテ一斗一升ト爲ルトキハ一斗一升ノ效用ハ一斗ノ效用ヨリモ大ナリト雖モ其新ニ加ヘラレタル一升ノ效用ハ其尙ホ一斗タリシトキノ一升ノ效用ヨリモ小ナリトス更ニ一升ヲ加フレハ其一升ノ效用ハ又曩ノ一升ノ效用ヨリ小ナルヘシ此ノ如

雜報

○迎新　世界平和ノ狀況ニ於テ吾人ハ玆ニ第二十世紀ノ第三年ヲ迎ヘ年一年ヨリ隆盛ノ域ニ進ム所ノ本校ノ紀律ノ下ニ斬新周密ナル我講義錄ニ依リ敬愛ナル校外生諸君ト俱ニ法理ノ神髓ヲ究ムルコトヲ得ルヲ悅ヒ恭タ　聖壽ノ無窮ヲ奉祝シ竝ニ讀者諸君ノ幸福ヲ祈リ併セテ益〻勵精愛讀アランコトヲ望ム

○制限外ノ利息ノ給付　當事者カ利息制限法違反ノ高利ヲ約シ債務者カ其制限外ノ利息ヲ給付シタルトキハ債權者ハ不當利得トシテ之カ返還ヲ爲ササルヘカラサルカ此問題ニ對スル大審院ノ判決理由ニ曰ク「利息制限法ハ公益規定ナルヲ以テ制限ニ超過シタル利率ヲ契約シタルトキハ獨リ債權者ニ背法ノ行爲アルノミナラス債務者モ亦背法ノ行爲アルコト勿論ナレハ債務者カ任意ニ制限超過ノ利息ヲ債權者ニ支拂ヒタル場合ニ於テハ所謂不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタルモノト云ハサルヲ得ス而シテ不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者ハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルヲ得サルコトハ民法第七百八條ニ於

ヲ明ニ規定スル所ナリ云云ト（大審院明治三十五年（オ）第二百十九號民金請求事件明治三十五年十月二十五日第一民事部判決）

○所有者ヲ誤認シテ假差押ヲ爲シタル執達吏ノ責任　執達吏カ債權者ノ指示ニ從ヒ債務者ノ所有ニ屬セサル物ニ對シ假差押ヲ爲サントスルニ際シ其物ノ所有者カ自己ノ所有物ナルコトヲ主張シテ差押ヲ拒ミタルニ拘ハラス假差押ノ手續ヲ爲シタルトキハ執達吏ハ其誤認ニ因リテ所有者ニ被ラシメタル損害ヲ賠償スルノ責任アリヤ否ヤニ付キ大審院ハ判決シテ曰ク「執達吏ハ官吏ニシテ且當事者ノ代理人タル二箇ノ資格ヲ有ス而シテ原判決ノ認定シタル事實ニ據レハ執達吏カ本件損害ノ原因タル清酒ノ假差押ヲ爲シタルハ其債務者タル水上誠ノ弟篠原千代吉ノ現住シタル家宅ニ屬スル倉庫内ニアリタルモノナリ而シテ其家宅ハ債務者ノ住所ナリ其清酒ハ債務者ノ所有物ナリトノ債權者タル上告人ノ指示ニ依リ執達吏之レカ假差押ヲ爲シタルモノナレハ假令當時被上告人カ係爭ノ清酒ヲ自己ノ占有シ居ルモノト口述シタルニモセヨ執達吏ニ於テ當然第三者タル被上告人ノ占有中ニアルモノト認メサルヲ得サル情況ニアラサレハ執達吏カ債權者タル上告人ノ代理人タリシ者ノ言ヲ信シ清酒ヲ水原誠ノ占有シ居ル所有物ナリト認メテ假差押ヲ爲シタリトテ民事訴訟法第五百六十七條ノ規定ニ違背シ官吏トシテ職務ヲ超越シタルモノト謂フヘカラス唯其後ニ至リテ確定判決ニ依リ該清酒ハ水原誠ノ所有ニアラスシテ被上告人ノ所有物タルコトヲ認メラレタル上ハ結局執達吏ハ委任行爲ヲ實行スルニ當リ委任者ノ指示ニ從ヒ清酒ノ所有者ヲ誤認シタルニ過キスシテ法規ニ違背シタル假差押ヲ爲シタルモノニアラス」（大審院明治三十五年（オ）第五百六十七號損害賠償請求事件明治三十五年十一月十七日第二民事部判決）

○支拂命令ニ因ル給付ト不當利得　民法第七百三條ニ曰ク「法律上ノ原因ナクシテ他人ノ財產又ハ勞務ニ因リ利益ヲ受ケ之カ爲メニ他人ニ損失ヲ及ホシタル者ハ其利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ」ト所謂法律上ノ原因トハ何ソヤ隨テ支拂命令ニ基キテ給付ヲ爲シタル後異議申立ノ結果其命令ノ無效ニ歸シタルトキハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ルカニ付キ大審院ハ下ノ如キ理由ヲ以テ之ヲ肯定セラレタリ曰ク「民法第七百三條ニ謂フ法律上ノ原因トハ權利ノ得喪變更ノ原因タルヘキ法律行爲若クハ相續占

有時效等ノ如キモノヲ指シタルモノニシテ支拂命令又ハ之ニ基ク假執行命令ノ如キハ之ヲ同條ニ謂フ法律上ノ原因ナリト謂フヘカラス何トナレハ支拂命令又ハ之ニ基ク執行命令ハ權利ヲ創設變更スルモノニアラス單ニ其存在ヲ認メ之ニ對シ實行力ヲ有セシムルニ過キサルモノナレハナリ既ニ該命令ニシテ法律上ノ原因ト云フヘキモノニアラサル以上ハ之ニ基キ或給付ヲ受ケタル場合ニハ其受益ノ原因タルモノハ該命令ニアラスシテ其命令ノ基因タル事由ナリト云ハサルヘカラス故ニ支拂命令ニ基キ給付ヲ受ケタルモノト雖モ異議ノ申立ニ依リ其命令カ效力ヲ失ヒ且ツ命令ノ基因タリシ事由存在セサリシモノト認メラルル以上ハ其給付ハ法律上ノ原因ナクシテ受ケタル利益ナルヲ以テ之ヲ返還スヘキモノナルヤ勿論ナリ」ト（大審院明治三十五年（オ）第四百五十八號不當錢濟金取戻請求事件明治三十五年十月三十日第一民事部判決）

○高等科校外生募集廣告

高等科講義錄第一號目次（三十五年十二月十九日發行）

○負擔附贈與及ヒ賣買ニ付テノ推問……法學博士　仁井田　益太郎
○商行爲ノ意義及ヒ商行爲ノ種類ニ付テノ講演……法學士　松本　烝治
○刑法第七十七條ニ付テノ推問……法學博士　岡田朝太郎
○立法行政司法ノ區別及ヒ我國法上ノ政務ノ區別ニ關スル講演……法學士　竹井耕一郎
○共同訴訟ニ付テノ講演……法學博士　仁井田　益太郎
○國際法ノ名稱區別及ヒ其發達ニ付テノ推問
○國際公法ノ學說ノ變遷ニ付テノ講演……法學士　秋山雅之介
○金貨本位制ノ實施ノ影響及ヒ戰後財政ニ付テノ推問……法學士　有賀長文
○羅馬法（自一頁至一六頁）……ドクトエール　アンドロワー　田中遜
雜報　○高等科○外交官試驗問題

◎高等科講義錄　毎月二回發行月謝金四十錢

○入學志望者ハ此際至急申込マルルヲ可トス

三十六年一月　和佛法律學校

法學志林

毎月一回十五日發行
校友、生徒、校外生二限リ一册特價郵稅共金九錢
十册前金郵稅共金八十錢

第三十八號　（卅五年十二月十五日發行）

志林

○最近判例批評　法學博士　梅　謙次郎

○外國會社　法學士　松岡義正　法學士　志田鉀太郎

纂論

○特定ノ人ニ對スル口頭ノ意思表示　I・Y　生

批評

○群團權ノ縮少、人權ノ蹂躪　辯護士　信岡雄四郎

解疑

○在廷證人訊問ノ申出ト裁判　法學士　遠藤忠次

○公證抹消請求ノ訴ヲ登記抹消ノ訴ニ變更スルコトヲ得ルカ　法學士　遠藤忠次

○一人ニシテ犯罪ノ教唆ト其實行ノ幇助ヲ爲シタル者ノ處分　法學士　谷野格

○買戻ノ特約ニ依ラサル解除權留保ノ效力　法學博士　梅　謙次郎

其他　判例、雜報、記事　數十件

發行所　和佛法律學校

（明治三十二年十二月九日內務省許可　毎月十九回三日五日六日八日十日十一日十三日十五日十六日十八日十九日廿日廿一日廿三日廿五日廿六日廿八日廿九日卅日發行）

明治三十六年一月五日印刷
明治三十六年一月六日發行
（定價金貳拾五錢）

東京市牛込區牛込北町十番地
編輯兼發行者　萩原敬之

東京市牛込區矢來町三番地
印刷者　小宮山信好

東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地
印刷所　金子活版所

東京市麹町區富士見町六丁目十六番地
發行所　司法省指定　和佛法律學校
（電話番町百七十四番）